Canon

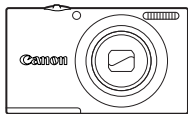
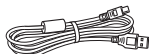
PowerShot A3400 IS
PowerShot A2300
PowerShot A810

カメラユーザーガイド

- ご使用前に必ず本書および、本書の「安全上のご注意」をお読みください。
- 本書をよく読んで、正しくお使いください。
- 将来いつでも使用できるように大切に保管してください。
- CD-ROM内の電子マニュアル（PDF形式）もあわせてご覧ください（p.2）。

日本語

カメラと付属品の確認

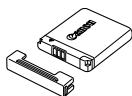
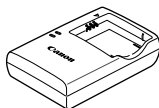
お使いになる前に、次のものが入っていることを確認してください。
万が一、不足のものがありましたら、お買い求めの販売店にご連絡ください。

カメラ

インターフェースケーブル
IFC-400PCU

リストストラップ
WS-800

カメラユーザーガイド
（本書）

DIGITAL CAMERA
Solution Disk

保証書

サポートガイド

バッテリーパック
NB-11L
（端子カバーつき）

バッテリー
チャージャー
CB-2LD

スタイラス

A810

単3形アルカリ
電池（2本）

- メモリーカードは付属されていません（p.3）。

電子マニュアルについて

CD-ROMには、「ImageBrowser EXガイド」（付属のソフトウェアについての電子マニュアル）が入っています（p.30）。

- 電子マニュアル（PDF形式）をご覧になるには、Adobe Readerが必要です。

使えるカード（市販品）について

以下のカードが容量に制限なくお使いになれます。

- SD（エスディー）メモリーカード*
- SDHC（エスディーエイチシー）メモリーカード*
- SDXC（エスディーエックスシー）メモリーカード*

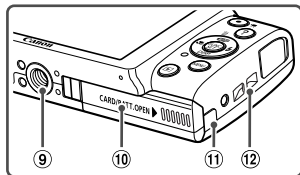
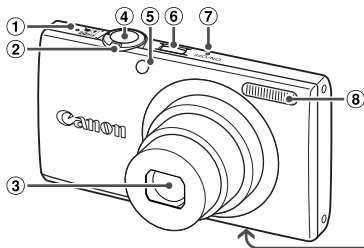
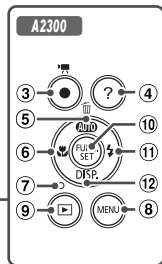
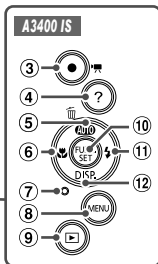
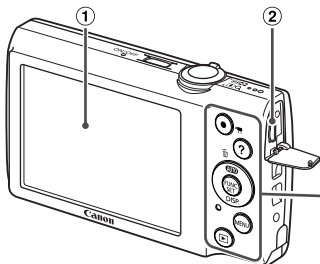
* SD 規格に準拠したカードです。カードによっては、正しく動作しないことがあります。

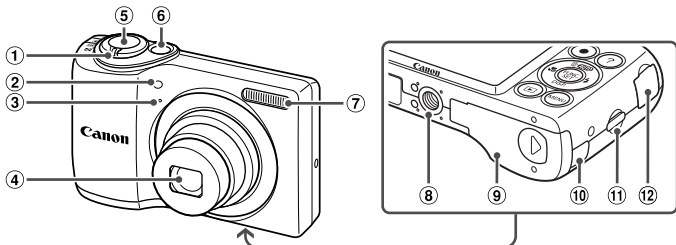
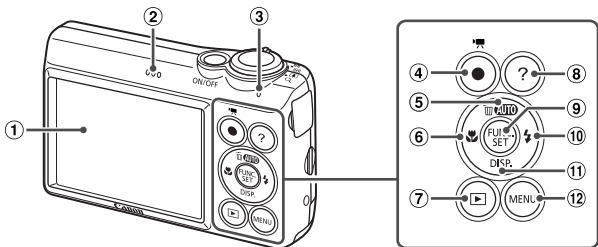
- カードをカードリーダーやパソコンなどの市販機器で使うときは、お使いになる機器(パソコンではOSやバージョンを含む)の対応状況をご確認ください。

お使いになる前にお読みください

- 必ず事前に試し撮りをし、撮影後は画像を再生して画像が正常に記録されていることを確認してください。万が一カメラやメモリーカードなどの不具合により、画像の記録やパソコンへの取り込みができなかったときの記録内容の補償については、ご容赦ください。
- このカメラで記録した画像は、個人として楽しむなどの他は、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、実演や興行、展示会などには、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限していることがありますのでご注意ください。
- このカメラの保証書は国内に限り有効です。万が一、海外旅行先で故障や不具合が生じたときは、帰国したあと、別紙の修理受付センターへご相談ください。
- 液晶モニターは、非常に精密度の高い技術で作られており 99.99% 以上の有効画素がありますが、画素欠けや、黒や赤の点が現れたままになることがあります。これは故障ではありません。また、記録される画像には影響ありません。
- 液晶モニターに保護シートが貼られているときは、はがしてからご使用ください。
- このカメラは、長い時間お使いになっていると、カメラの温度が高くなることがあります。これは故障ではありません。

各部のなまえと記載について

A3400 IS　A2300

① スピーカー
② ズームレバー
　撮影時：[♠]（望遠）／[♣♣♣]（広角）
　再生時：Q（拡大）／
　[■]（インデックス）
③ レンズ
④ シャッターボタン
⑤ ランプ（前面）
⑥ 電源ボタン
⑦ マイク
⑧ ストロボ
⑨ 三脚ねじ穴
⑩ カード／バッテリー収納部ふた
⑪ DCカプラー用ケーブル通し部
⑫ ストラップ取り付け部

① 画面（液晶モニター）
② A / V OUT（映像／音声出力）・DIGITAL（デジタル）端子
③ 動画ボタン
④ ?（ヘルプ）ボタン
⑤ AUTO（オート）／🗑（1画像消去）／上ボタン
⑥ 🌷（マクロ）／左ボタン
⑦ ランプ（背面）
⑧ MENU（メニュー）ボタン
⑨ ▶（再生）ボタン
⑩ FUNC./SET（ファンクション／セット）ボタン
⑪ ⚡（ストロボ）／右ボタン
⑫ DISP.（ディスプレイ）／下ボタン

A810

① ズームレバー
撮影時：[♠]（望遠）／[♠♠♠]（広角）
再生時：Q（拡大）／
▩（インデックス）
② ランプ（前面）
③ マイク
④ レンズ
⑤ シャッターボタン
⑥ 電源ボタン
⑦ ストロボ
⑧ 三脚ねじ穴
⑨ カード／電池収納部ふた
⑩ DCカプラー用ケーブル通し部
⑪ ストラップ取り付け部
⑫ A / V OUT（映像／音声出力）・DIGITAL（デジタル）端子

① 画面（液晶モニター）
② スピーカー
③ ランプ（背面）
④ 動画ボタン
⑤ AUTO（オート）／🗑（1画像消去）／上ボタン
⑥ 🌷（マクロ）／左ボタン
⑦ ▶（再生）ボタン
⑧ ?（ヘルプボタン）
⑨ FUNC./SET（ファンクション／セット）ボタン
⑩ ⚡（ストロボ）／右ボタン
⑪ DISP.（ディスプレイ）／下ボタン
⑫ MENU（メニュー）ボタン

- カメラのボタンは、ボタンに表記されている絵文字を使って示しています。
- カメラ背面にある次のボタンは、絵文字で示しています。
  ▲ 上ボタン
  ◀ 左ボタン
  ▶ 右ボタン
  ▼ 下ボタン
  FUNC.SET FUNC./SET（ファンクション／セット）ボタン
- 撮影モード、画面に表示される絵文字や文言は、[ ] つきで示しています。
- ⓘ：知っておいていただきたい重要事項を示しています。
- ✎：上手に使うためのヒントや補足事項を示しています。
- （p.xx）：参照ページを示しています。xxはページ数を示しています。
- すべての機能が初期状態になっていることを前提に説明しています。
- このカメラで使えるメモリーカードのことを「カード」と表記しています。
- タイトルの上にあるタブは、その機能が静止画や動画で使えるかどうかを示しています。

  静止画：静止画を撮るときや見るときに使える機能を示しています。

  動画：動画を撮るときや見るときに使える機能を示しています。
- 機種により異なる機能は、次の絵文字で示しています。
  A3400 IS PowerShot A3400 ISだけの機能や注意事項
  A2300 PowerShot A2300だけの機能や注意事項
  A810 PowerShot A810だけの機能や注意事項
- このガイドでは、PowerShot A3400 ISの画面例やイラストを使って説明しています。

目次

やりたいこと目次

撮　る

見　る

動画を撮る／見る

印刷する

残　す

安全上のご注意

- ご使用の前に「安全上のご注意」をよくお読みの上、製品を正しくお使いください。
- ここに示した注意事項は、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防ぐためのものです。
- 別売アクセサリーをお持ちのときは、付属の使用説明書もあわせてご確認ください。

警告 死亡または重傷を負う可能性がある内容です。

- **ストロボを人の目に近づけて発光しない。**

視力障害の原因となります。特に、乳幼児を撮影するときは1 m以上離れてください。

- **お子様や幼児の手の届くところで保管しない。**

ストラップ：誤って首に巻き付けると、窒息することがあります。

- **指定外の電源は使わない。**
- **分解、改造したり、加熱しない。**
- **落とすなどして強い衝撃を与えない。**
- **落下などで破損したときは、内部には触れない。**
- **煙が出ている、異臭がするなどの異常が発生したときは使わない。**
- **アルコール、ベンジン、シンナーなどの有機溶剤で手入れしない。**
- **水や海水などの液体で濡らさない。**
- **内部に液体や異物などを入れない。**

感電、火災の原因となります。

A3400 IS A2300

万が一、液体や異物が入ったときは、すぐに電源を切り、その後必ずバッテリーを取り出してください。

バッテリーチャージャーが液体で濡れたときは、コンセントから抜いて、お買い上げになった販売店または修理受付センターにご相談ください。

A810

万が一、液体や異物が入ったときは、すぐに電源を切り、その後必ず電池を取り出してください。

A3400 IS A2300

- **指定外のバッテリーは使わない。**
- **バッテリーは火に近づけたり、火の中に投げ込まない。**
- **電源プラグを定期的に抜き、その周辺およびコンセントにたまったホコリや汚れを乾いた布で拭き取る。**
- **濡れた手で電源プラグを抜き差ししない。**
- **コンセントや配線器具の定格を超える使いかたをしない。また、電源プラグが傷んでいたり、差し込みが不十分なまま使わない。**
- **電源プラグや端子に金属製のピンやゴミを付着させない。**

バッテリーが破裂や液漏れし、けがや周囲を汚す原因となったり、火災、感電の原因となることがあります。万が一、電解液が漏れ、衣服、皮膚、目、口についたときは、ただちに洗い流してください。

A810

- **指定外の電池は使わない。**
- **電池は火に近づけたり、火の中に投げ込まない。**

電池が破裂や液漏れし、けがや周囲を汚す原因となったり、火災、感電の原因となることがあります。万が一、電解液が漏れ、衣服、皮膚、目、口についたときは、ただちに洗い流してください。

- **カメラの使用が禁止されている場所では、カメラの電源を切る。**

カメラが発生する電磁波により、計器や機器に影響を与える恐れがあります。特に飛行機内や医療機関など、電子機器の使用が制限されている場所では十分注意してください。

- **付属のCD-ROMは、CD-ROM対応ドライブ以外では絶対に再生しない。**

音楽用CDプレーヤーで再生してヘッドフォンなどを使用したときは、大音量により聴力障害の原因となります。また、音楽用CDプレーヤーで使用したときは、スピーカーなどの破損の原因となります。

注意

傷害を負う可能性がある内容です。

- **ストラップで下げているときは、他のものに引っ掛けたり、強い衝撃や振動を与えない。**
- **レンズを強く押したり、ぶつけたりしない。**

けがやカメラの故障の原因となることがあります。

- **液晶モニターに強い衝撃を与えない。**

液晶モニターが割れると、破片でけがをすることがあります。

- **ストロボを指や布などで覆ったまま、発光させない。**

やけどや故障の原因となることがあります。

- **次の場所で使用・保管しない。**
  - **直射日光のあたるところ**
  - **40度を超える高温になるところ**
  - **湿気やホコリの多いところ**

A3400 IS　A2300

バッテリーの液漏れ、発熱、破裂により、感電、やけど、けが、火災の原因となることがあります。

カメラやバッテリーチャージャーが熱により変形することがあります。

A810

電池の液漏れ、発熱、破裂により、感電、やけど、けが、火災の原因となることがあります。

注意 物的損害を負う可能性がある内容です。

- **カメラを強い光源（晴天時の太陽など）に向けない。**

撮像素子が損傷することがあります。

- **砂浜や風の強い場所で使うときは、カメラの内部にホコリや砂が入らないようにする。**

故障の原因となることがあります。

- **ストロボに汚れやホコリなどの異物がついたときは、綿棒などで取り除く。**

そのまま発光させると、発光熱により、付着物の発煙や故障の原因となることがあります。

A3400 IS *A2300*

- **使用しないときは、カメラからバッテリーを取り出して保管する。**

カメラにバッテリーを入れたままにしておくと、液漏れにより故障の原因となることがあります。

A810

- **使用しないときは、カメラから電池を取り出して保管する。**

カメラに電池を入れたままにしておくと、液漏れにより故障の原因となることがあります。

A3400 IS *A2300*

- **バッテリーを廃却するときは、接点にテープを貼るなどして絶縁する。**

A810

- **電池を廃却するときは、接点にテープを貼るなどして絶縁する。**

他の金属と接触すると、発火、破裂の原因となることがあります。

A3400 IS *A2300*

- **バッテリーチャージャーは、使用しないときや充電が終わったときは、コンセントから外す。**
- **布などをかけたまま充電しない。**

長時間接続しておくと、発熱、変形して火災の原因となることがあります。

A3400 IS *A2300*

- **ペットの近くにバッテリーを置かない。**

バッテリーに噛みついたとき、バッテリーの液漏れ、発熱、破裂により、故障や火災の原因となることがあります。

A810

- **充電状態の異なる電池、購入時期の異なる電池を混ぜて使わない。**
- **電池の「+」「−」端子を逆にして入れない。**

故障の原因となることがあります。

- **ズボンのポケットにカメラを入れたまま椅子などに座らない。**

液晶モニターの破損の原因となります。

- **かばんにカメラを入れるときは、硬いものが液晶モニターにあたらないようにする。**
- **ストラップにアクセサリーをつけない。**

硬いものが液晶モニターにあたると破損の原因になります。

A3400 IS

画面をタッチして操作する

このカメラの画面はタッチパネルになっているため、指で画面をタッチ（触れて）して直感的に操作できます。

タッチ

画面を指で押して離す

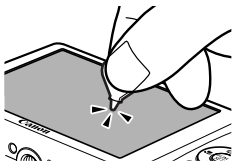
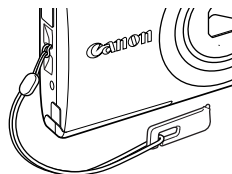
- いろいろな機能の設定や、撮影するときなどに使います。

ドラッグ

指を画面に触れたまま移動する

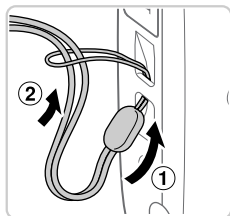
- 再生モードで、次の画像に表示を切り換えるときや、拡大表示する範囲を変えるときなどに使います。

- タッチパネルは圧力を感知するタイプなので、保護シートを貼るとタッチ操作が感知されにくいことがあります。

スタイラスを使う

- 指でタッチしにくいときは、付属のスタイラス（p.2）を使って操作します。付属のスタイラス以外のとがったもの（鉛筆やペンなど）で操作しないでください。
なお、思うように項目やボタンを選べないときは、タッチ位置の調整を行ってください（p.128）。

- スタイラスは、図のようにストラップに取り付けることができます。

準備する

ここでは、撮影前の準備について説明します。

ストラップを取り付ける

1 ストラップを取り付ける

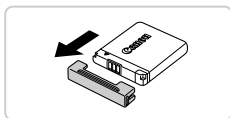
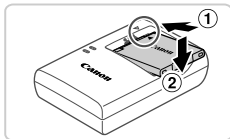
- ①ストラップの先端を取り付け部に通して、②通した先端にストラップを通します。

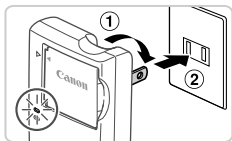
カメラを構える

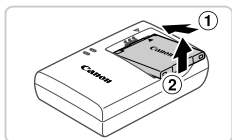
- ストラップを手首に通します。
- 撮影するときは、脇をしめてカメラが動かないようにしっかりと構え、ストロボに指がかからないようにしてください。

A3400 IS *A2300*

バッテリーを充電する

カメラに付属のバッテリーチャージャー（充電器）を使って、バッテリーを充電します。お買い上げ時はバッテリーが充電されていませんので、必ず充電してからお使いください。

1 カバーを外す

2 バッテリーを取り付ける

- バッテリーとバッテリーチャージャーの▲をあわせて、①の方向へ押しながら、②の方向へ取り付けます。

3 充電する

- プラグを①の方向へおこして、②コンセントに差し込みます。
- ▶充電がはじまり、ランプがオレンジ色に点灯します。
- ▶充電が完了すると、ランプが緑色に点灯します。

4 バッテリーを取り外す

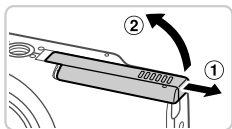
- バッテリーチャージャーをコンセントから抜き、①の方向へ押しながら、②の方向へ取り外します。

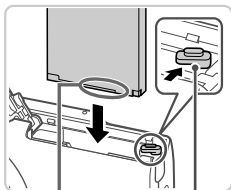
- バッテリーを保護し、性能の劣化を防ぐため、24時間以上連続して充電しないでください。

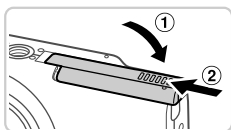
- 充電に必要な時間、フル充電したバッテリーで撮影できる枚数と時間については、「主な仕様」を参照してください（p.38）。

A3400 IS　A2300

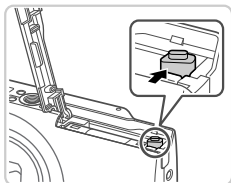
バッテリーを入れる

付属のバッテリーを入れます。

1 ふたを開ける

- ①の方向にふたを動かして、②の方向へふたを開けます。

2 バッテリーを入れる

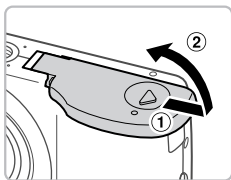
- バッテリーを図の向きにして、バッテリーロックを矢印の方向へ動かし、「カチッ」と音がしてロックされるまで差し込みます。
- 間違った向きでバッテリーを入れるとロックされません。必ずバッテリーがロックされる正しい向きで入れてください。

3 ふたを閉める

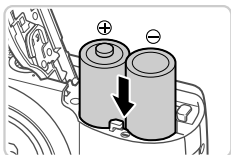
- ふたを①の方向へたおして押さえたまま、②の方向へ「カチッ」と音がするまで動かして閉めます。

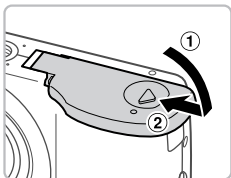
バッテリーを取り出す

- ふたを開け、バッテリーロックを矢印の方向に動かします。
- ▶ バッテリーが出てきます。

A810

電池を入れる

付属の電池を入れます。

1 ふたを開ける

- ①の方向にふたを動かして、②の方向へふたを開けます。

2 電池を入れる

- 電池を図の向きにして入れます。

3 ふたを閉める

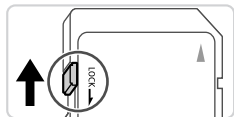
- ふたを①の方向にたおして押さえたまま、②の方向へ「カチッ」と音がするまで動かして閉めます。

使える電池

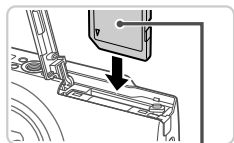
単3形アルカリ電池と、キヤノン製単3形ニッケル水素電池（別売）（p.133）です。

- 指定外の電池は性能にばらつきがあるため、指定された電池の使用をおすすめします。
- ニッケル水素電池は、アルカリ電池に比べて、より長時間（特に低温下）カメラが使えます。

カードを入れる

カード（市販品）をカメラに入れます。
なお、新しく買ったカードや他のカメラやパソコンで初期化したカードは、このカメラで初期化（フォーマット）（p.124）することをおすすめします。

1 カードのスイッチを確認する

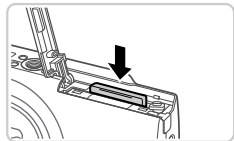
- スイッチがあるカードでは、スイッチが下（「LOCK」側）になっていると撮影できません。「カチッ」と音がするまでスイッチを上に動かします。

2 ふたを開ける

ラベル面

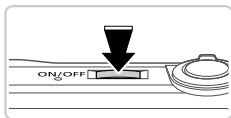
3 カードを入れる

- カードを図の向きにして、「カチッ」と音がするまで差し込みます。
- カードは、必ず正しい向きで入れてください。間違った向きで入れると、カメラの故障の原因となります。

4 ふたを閉める

カードを取り出す

- ふたを開け、「カチッ」と音がするまでカードを押し込み、ゆっくり指を離します。
- ▶ カードが出てきます。

日付／時刻を設定する

はじめて電源を入れると、日付／時刻の設定画面が表示されます。撮影した画像には、ここで設定した日付／時刻をもとにした日時の情報が記録されます。必ず設定してください。

1 電源を入れる

- 電源ボタンを押します。
- ▶［日付/時刻］画面が表示されます。

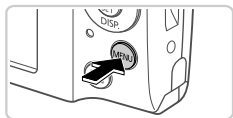
2 日付／時刻を設定する

- ◀か▶を押して項目を選びます。
- ▲か▼を押して設定します。
- すべての項目を設定したら、(FUNC/SET)を押します。
- 電源ボタンを押すと電源が切れます。

- 日付／時刻を設定しないと、電源を入れるたびに［日付/時刻］画面が表示されます。正しく設定してください。

- 手順2で［☀OFF］を選び、▲か▼を押して［☀］にすると、サマータイム（1時間プラスされます）に設定されます。

日付／時刻を変える

日付／時刻を、現在の設定から変えられます。

1 メニューを表示する

- MENUボタンを押します。

2 ［日付/時刻］を選ぶ

- ズームレバーを動かして、[ƳŤ] タブを選びます。
- ▲か▼を押して［日付/時刻］を選び、(FUNC. SET)を押します。

3 日付／時刻を変える

- p.21の手順2の操作で設定します。
- MENUボタンを押すと、メニュー画面が消えます。

- カメラには日付／時刻用電池（バックアップ電池）が内蔵されています。バッテリーを取り出してから約3週間は、設定した日付／時刻が保持されます。
- 日付／時刻用電池がなくなると、カメラの電源を入れたときに［日付 / 時刻］画面が表示されます。p.21の手順で正しく設定してください。

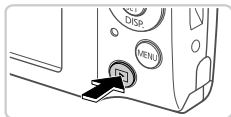
A3400 IS **A2300**

- 日付／時刻用電池は、充電したバッテリーをカメラに入れるか、ACアダプターキット（別売）（p.132）を使うと、カメラの電源を入れなくても約4時間で充電されます。

A810

- 十分に残量のある電池または充電したバッテリー（別売）をカメラに入れるか、ACアダプターキット（別売）（p.132）を使うとカメラの電源を入れなくても約4時間で充電されます。

表示言語を選ぶ

画面に表示される言語を変えられます。お買い上げ時は日本語に設定されています。

1 再生モードにする

- ▶ボタンを押します。

2 設定画面を表示する

- (FUNC/SET)を押したまま、MENUボタンを押します。

3 言語を設定する

- ▲▼◀▶を押して言語を選び、(FUNC/SET)を押します。
- ▶ 表示言語が設定され、設定画面が消えます。

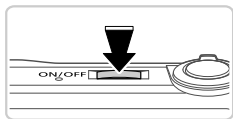
- 言語設定は、MENUボタンを押すと表示されるメニュー画面で、[ᛘ]タブの[言語]を選んで設定することもできます。

使ってみる

ここでは、電源を入れてから静止画や動画を撮影し、その画像を見るまでの手順について説明しています。

静止画

撮る（こだわりオート）

カメラが被写体や撮影状況を判別するため、シーンに最適な設定でカメラまかせの全自動撮影ができます。

1 電源を入れる

- 電源ボタンを押します。
- ▶ 起動画面が表示されます。

2 AUTO モードにする

- AUTO が表示されるまで▲を何度か押します。
- カメラを被写体に向けると、シーンを判別するため動作音（カチカチ）がします。

A3400 IS

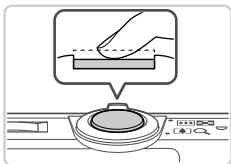
▶ 画面の右上にカメラが判別したシーンと手ブレ補正のアイコンが表示されます。

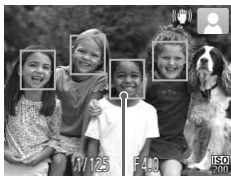
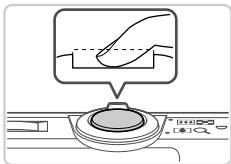
A2300 A810

▶ 画面の右上にカメラが判別したシーンのアイコンが表示されます。

▶ 被写体が検出されたときは、フレームが表示されてピントを合わせます。

3 撮りたいものの大きさを決める

- ズームレバーを [望遠] 側に押すと撮りたいものが大きくなり、[広角] 側に押すと小さくなります。

4 ピントを合わせる

- シャッターボタンを浅く押して、ピントが合うと電子音が「ピピッ」と2回鳴り、ピントが合った位置にAFフレームが表示されます。

AFフレーム

5 撮影する

- シャッターボタンを深く押し込みます。
- ▶ シャッター音が鳴り、撮影されます（暗いところでは自動的にストロボが光ります）。
- ▶ 撮影した画像は、約2秒間表示されます。
- 画像が表示されている状態でも、シャッターボタンを押すと、次の撮影ができます。

動画

動画を撮る

動画ボタンを押すだけで、カメラまかせの動画撮影ができます。

1 撮影の準備をする

- p.24 の手順 1 ～ 3 の操作で、電源を入れて AUTO モードにし、撮りたいものの大きさを決めます。

撮影時間

2 撮影をはじめる

● 動画ボタンを押すと、電子音が「ピッ」と 1 回鳴って撮影がはじまり、[●録画] と撮影時間が表示されます。

▶ 画面上下に黒い帯が表示されます。この部分は撮影できません。

● 撮影が始まったら動画ボタンから指を離します。

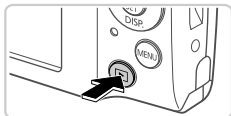
3 撮影を終える

● もう一度動画ボタンを押すと、電子音が「ピピッ」と2回鳴り、撮影が終わります。

▶ カード容量がいっぱいになると、自動的に撮影が終わります。

静止画　動画

見る

撮影した画像を画面で見ることができます。

1 再生モードにする

● [▶]ボタンを押します。

▶ 最後に撮影した画像が表示されます。

2 画像を選ぶ

- ◀を押すと前の画像が表示され、▶を押すと次の画像が表示されます。
- ◀か▶を押したままにすると、画像が速く切り換わります。ただし、表示画像は粗くなります。

- 動画では、[SET 動画]が表示されます。動画を再生するときは手順3に進みます。

3 動画を再生する

- (FUNC/SET)を押して動画操作パネルを表示し、◀か▶を押して［ ▶ ］を選び、もう一度(FUNC/SET)を押します。
- ▶ 動画が再生され、再生が終わると[SET 動画]が表示されます。
- 音量は▲か▼を押して調節します。

- 再生モードの状態でシャッターボタンを半押しすると撮影モードになります。

A3400 IS

- ［(▶)］をタッチすることでも動画を再生できます。また、再生中に画面を上下方向に素早くドラッグすると音量を調節できます。

A3400 IS

ドラッグで画像を選ぶ

- 画面を左方向にドラッグすると次の画像が表示され、右方向にドラッグすると前の画像が表示されます。

消す

不要な画像を1枚ずつ選んで消せます。消した画像はもとに戻すことはできません。十分に確認してから消してください。

1 消したい画像を選ぶ

- ◀か▶を押して画像を選びます。

2 消す

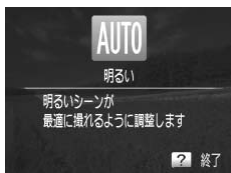
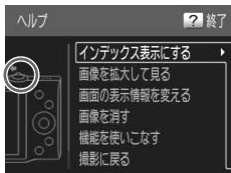
- ▲を押します。
- ［消去？］が表示されたら、◀か▶を押して［消去］を選び、(FUNC/SET)を押します。
- ▶ 表示していた画像が消えます。
- 中止するときは、◀か▶を押して［キャンセル］を選び、(FUNC/SET)を押します。

- 画像をまとめて消すこともできます（p.116）。

静止画　動画

ヘルプを表示する

カメラが判別したシーンの説明や撮影のアドバイス、再生の操作の説明を画面に表示できます。

- ？ボタンを押すと、ヘルプが表示されます。
- もう一度？ボタンを押すと、もとの画面に戻ります。

- 撮影モードでは、カメラが判別したシーンの説明が表示されます。また、シーンによっては、撮影のアドバイスも表示されます。

- 再生モードでは、▲か▼を押して目的を選ぶと、操作に使うズームレバーやボタンがイラスト上に示されます。
- 目的を選んで、▶を押すと操作の説明が表示されます。説明の続きを読むときは、▲か▼を押します。◀を押すと左の画面に戻ります。

- AUTO以外の撮影モードでは、再生モードと同じようにヘルプを使えます。

ソフトウェアと電子マニュアルを使う

ここでは、付属CDに入っているソフトウェアや電子マニュアルの紹介のほか、インストール方法、画像をパソコンに取り込む方法について説明します。

付属のソフトウェアでできること

付属のCD内のソフトウェアをインストールすると、パソコンで次のようなことができます。

ImageBrowser EX
（イメージブラウザー イーエックス）

- 画像の取り込みやカメラの各種設定
- 画像の閲覧をはじめ、検索や整理などの画像管理
- 画像の印刷や各種の編集
- オートアップデート機能による最新バージョンへの更新

オートアップデート機能について

付属のソフトウェアは、最新バージョンへの更新や新しい機能の追加などをインターネットを使って行います（一部のソフトウェアは除く）。そのため、インターネットにつながるパソコンへインストールしてお使いください。

- この機能をお使いいただくためには、インターネットに接続できる環境が必要なため、プロバイダーとの接続料金や通信料金が別途かかります。

電子マニュアル

付属のCD内のソフトウェアをインストールすると、次の電子マニュアルも一緒にインストールされます。

ImageBrowser EXガイド

付属のソフトウェアを使うときに参照してください。
ImageBrowser EXのヘルプ機能から参照することができます。

パソコンに必要なシステム構成

付属のソフトウェアがお使いになれるパソコンは以下の通りです。また、電子マニュアルをご覧になるには、別途Adobe Readerが必要です。

Windows

OS	Windows 7 SP1 Windows Vista SP2 Windows XP SP3
機種	上記OSがプリインストールされていて、USBポートが標準装備されていることと、インターネットに接続できること
CPU	静止画1.6 GHz 以上、動画Core 2 Duo 1.66 GHz以上
RAM	Windows 7（64 bit）：静止画 2 GB以上、動画 1 GB以上 Windows 7（32 bit）、Windows Vista（64 bit、32 bit）：1 GB以上 Windows XP：静止画512 MB以上、動画1 GB以上
インターフェース	USB
ハードディスク空き容量	440 MB以上*
ディスプレイ	1,024 x 768ドット以上

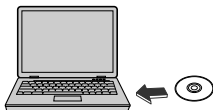
* Windows XPでは、Microsoft .NET Framework 3.0（最大500 MB）以上のインストールが必要です。お使いの環境によっては、インストールに時間がかかることがあります。

Macintosh

OS	Mac OS X v10.6
機種	上記OSがプリインストールされていて、USBポートが標準装備されていることと、インターネットに接続できること
CPU	Core Duo 1.83 GHz 以上
RAM	1 GB以上
インターフェース	USB
ハードディスク空き容量	550 MB以上
ディスプレイ	1,024 x 768ドット以上

- 最新のOSを含む対応状況については弊社ホームページをご確認ください。

ソフトウェアと電子マニュアルをインストールする

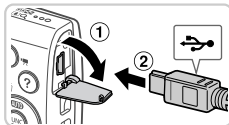
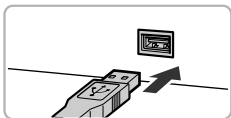
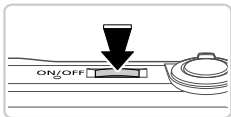
ここでは、Windows 7とMac OS X v10.6を使って説明をしています。なお、ソフトウェアはオートアップデート機能により、最新バージョンへの更新や新しい機能の追加などが行われます（一部のソフトウェアは除く）ので、インターネットにつながるパソコンへインストールしてください。

1 CDをパソコンのドライブに入れる

- 付属のCD（DIGITAL CAMERA Solution Disk）（p.2）をパソコンのドライブに入れます。
- Macintoshでは、CDを入れるとデスクトップ上に表示されるCDアイコンをダブルクリックして開き、表示される［ ］をダブルクリックします。

2 インストールをはじめる

- ［おまかせインストール］をクリックし、表示される画面にしたがって操作を進めます。

3 カメラの接続をうながすメッセージが表示されたらカメラをパソコンとつなぐ

- カメラの電源が切れた状態でふたを開き（①）、付属のインターフェースケーブル（p.2）の小さい方のプラグを図の向きにして、カメラの端子にしっかりと差し込みます（②）。

● インターフェースケーブルの大きい方のプラグをパソコンのUSB端子に差し込みます。パソコンのUSB端子については、パソコンの使用説明書を参照してください。

4 インストールする

● カメラの電源を入れて、表示される画面にしたがって必要な操作をおこない、インストールを進めます。

▶ 最新バージョンへの更新や新しい機能の追加などを行うためインターネットへつながります。そのため、お使いのパソコンやインターネット環境によってはインストールに時間がかかることがあります。

● インストールを終えると表示される画面の［完了］または［再起動］をクリックして、デスクトップ画面が表示されたらCDを取り出します。

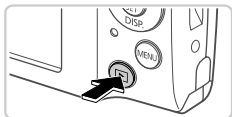
● カメラの電源を切ってからケーブルを抜きます。

- インターネットに接続していないときは、次のような制限事項があります。
  - 手順3の画面は表示されません。
  - 一部の機能がインストールされないことがあります。
  - はじめてカメラとパソコンをつないだときにドライバーがインストールされるため、操作ができるようになるまでに時間がかかることがあります。
- 付属のCDにImageBrowser EXが入っているカメラを複数お持ちのときは、それぞれのカメラに最適な更新や新しい機能をオートアップデート機能により追加するため、それぞれのCDとカメラを使い、表示される画面にしたがってインストールしてください。

画像をパソコンに取り込む

ここでは、Windows 7とMac OS X v10.6を使って説明をしています。

1 カメラとパソコンをつなぐ

- p.32の手順3の操作でカメラとパソコンをつなぎます。

2 電源を入れてCameraWindow（カメラウィンドウ）を表示する

- ▶ボタンを押して電源を入れます。
- Macintoshでは、カメラとパソコンが通信できる状態になると、CameraWindowが表示されます。
- Windowsでは、以下の操作を行います。
- 表示された画面で［ ］のプログラムを変更するためのリンクをクリックします。

- ［画像をキヤノンカメラからダウンロードします］を選び、［OK］をクリックします。

- ［ ］をダブルクリックします。

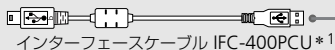
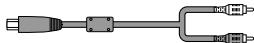
CameraWindow

3 画像を取り込む

- ［カメラ内の画像の取り込み］をクリックしたあと、［未転送画像を取り込む］をクリックします。
- ▶ 画像がパソコンに取り込まれて、「ピクチャ」フォルダ内に撮影日ごとのフォルダに分けられて保存されます。
- 取り込みが完了したら CameraWindow を閉じ、カメラの▶ボタンを押して電源を切ってからケーブルを抜きます。
- パソコンで画像を見る操作は、「ImageBrowser EXガイド」（p.30）を参照してください。

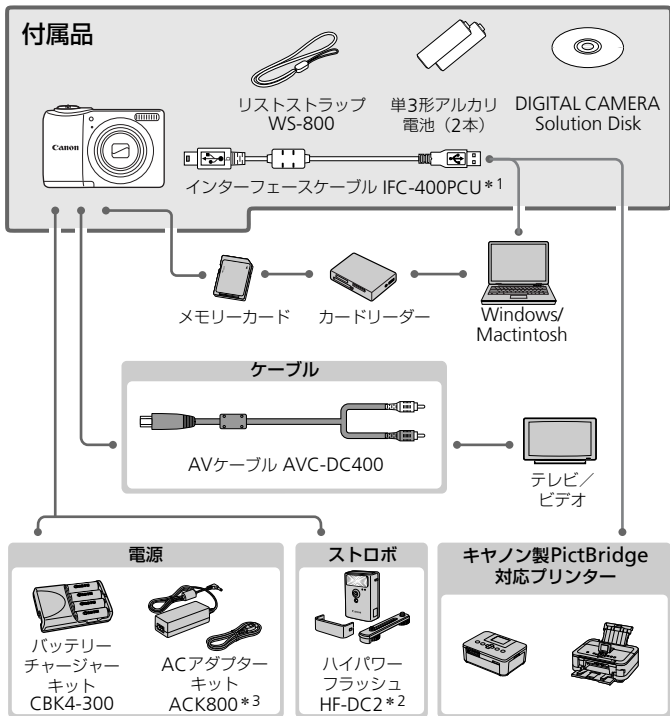
- Windows 7で手順2の画面が表示されないときは、タスクバーの［ ］をクリックします。
- Windows VistaまたはWindows XPをお使いのときは、手順2でカメラの電源を入れるとパソコンに表示される画面で［画像をキヤノンカメラからダウンロードします］をクリックして、CameraWindowを表示します。この操作で画面が表示されないときは、［スタート］メニュー▶［すべてのプログラム］▶［Canon Utilities］▶［CameraWindow］▶［CameraWindow］を選びます。
- Macintosh で手順 2 の操作をしても CameraWindow が表示されないときは、Dock（デスクトップ下部に表示されるバー）の［CameraWindow］アイコンをクリックします。
- 付属のソフトウェアの画像取り込み機能を使わなくても、カメラとパソコンをつなぐだけで画像を取り込むことができますが、次のような制限事項があります。
  - カメラとパソコンをつないでから操作できるようになるまで、数分かかることがあります。
  - 縦位置で撮影した画像が横位置になって取り込まれることがあります。
  - 保護した画像が、パソコン側で解除されることがあります。
  - OS のバージョンや使用するソフトウェア、ファイルサイズによっては、画像や画像に付属する情報が正しく取り込まれないことがあります。
  - 動画編集や書き戻しなど、付属のソフトウェアの機能が一部使えなくなることがあります。

システムマップ

A3400 IS　A2300

＊1別売りも用意されています。

＊2ハイパワーフラッシュ HF-DC1もお使いになれます。

＊3DCカプラー DR-DC10 が必要です。

A810

アクセサリーはキヤノン純正品のご使用をおすすめします

本製品は、キヤノン純正の専用アクセサリーと組みあわせてお使いになった場合に最適な性能を発揮するように設計されておりますので、キヤノン純正アクセサリーのご使用をおすすめいたします。
なお、純正品以外のアクセサリーの不具合（例えばバッテリーパックの液漏れ、破裂など）に起因することが明らかな、故障や発火などの事故による損害については、弊社では一切責任を負いかねます。また、この場合のキヤノン製品の修理につきましては、保証の対象外となり、有償とさせていただきます。あらかじめご了承ください。

主な仕様

カメラ部有効画素数	約1600万画素
レンズ焦点距離	5倍ズーム：5.0 (W) – 25.0 (T) mm （35mmフィルム換算：28 (W) – 140 (T) mm）
液晶モニター	A3400 IS 3.0型TFTカラー液晶（タッチパネル） 有効画素数：約23.0万ドット A2300 A810 2.7型TFTカラー液晶 有効画素数：約23.0万ドット
ファイルフォーマット	DCF準拠、DPOF対応（Version 1.1）
データタイプ	静止画：Exif 2.3（JPEG） 動画：MOV（画像：H.264、音声：リニアPCM（モノラル））
インターフェース	Hi-Speed USB アナログ音声出力（モノラル） アナログ映像出力（NTSC/PAL）
電源	A3400 IS A2300 バッテリーパック NB-11L ACアダプターキット ACK-DC90 A810 単3 形アルカリ電池（単3 形NiMH 電池 NB-3AH）× 2 コンパクトパワーアダプター CA-PS800（ACアダプターキット ACK800に付属） ・ただし接続には、別売のDCカプラー DR-DC10が必要
大きさ（CIPA準拠）	A3400 IS 94.4 x 56.3 x 21.3 mm A2300 94.4 x 54.2 x 20.1 mm A810 94.7 x 61.3 x 29.8 mm
質量（CIPA準拠）	（下表）

	電池・メモリーカード含む	本体のみ
A3400 IS	約141 g	約125 g
A2300	約125 g	約109 g
A810	約171 g	約123 g

撮影できる枚数・時間、再生できる時間

A3400 IS ＊1

項目		
撮影枚数		約180枚
動画撮影時間＊2		約50分
	連続時＊3	約1時間30分
再生時間		約4時間

A2300 ＊1

項目		
撮影枚数		約210枚
動画撮影時間＊2		約50分
	連続時＊3	約1時間40分
再生時間		約5時間

A810

電源		アルカリ電池（付属品）＊4	ニッケル水素電池（別売）＊1
撮影枚数		約220枚	約500枚
動画撮影時間＊2		約1時間	約2時間
	連続時＊3	約1時間40分	約3時間
再生時間		約10時間	約13時間

＊1 フル充電状態での枚数・時間です。
＊2 カメラの初期状態で、撮影/一時停止、電源の入/切、ズームなどの操作をしたときの時間です。
＊3「一度に撮影できる時間まで撮影」、「自動停止」を繰り返したときの時間です。
＊4 アルカリ電池は銘柄により、撮影枚数や時間が大きく変わることがあります。

- 撮影枚数は、CIPA（カメラ映像機器工業会）の試験基準によります。
- 撮影枚数・時間は、撮影条件により少なくなることがあります。

1枚のカードに撮影できる枚数

記録画素数（ピクセル）		1枚のカードに撮影できる枚数（約・枚）	
		8 GB	32 GB
L（ラージ）	16M/4608x3456	1903	7684
M1（ミドル1）	8M/3264x2448	3721	15020
M（ミドル）＊	4M/2304x1728	6638	26792
M2（ミドル2）	2M/1600x1200	12927	52176
S（スモール）	0.3M/640x480	40937	165225
W（ワイド）	4608x2592	2531	10219

＊［ ］モード時

- 当社測定条件によるもので、被写体やカードの銘柄、カメラ設定などにより変わります。

1枚のカードに撮影できる時間

画質	1枚のカードに撮影できる時間	
	8 GB	32 GB
1280	49分18秒＊1	3時間19分3秒＊2
640	1時間28分59秒	5時間59分10秒

＊1 iFrame動画では、27分28秒

＊2 iFrame動画では、1時間50分52秒

- 当社測定条件によるもので、被写体やカードの銘柄、カメラ設定などにより変わります。
- 一度の撮影で動画の容量が4 GBになるか、撮影時間が［1280］では約29分59秒、［640］では約1時間になると、自動的に撮影が終わります。
- カードによっては、連続撮影時間に満たなくても、撮影が終わることがあります。SDスピードクラス6以上のカードを使用することをおすすめします。

ストロボ調光範囲

もっとも広角側（ ）にしたとき	50 cm – 3.0 m
もっとも望遠側（ ）にしたとき	1.0 m – 2.0 m

撮影距離

撮影モード	フォーカスゾーン	もっとも広角側（[W]）にしたとき	もっとも望遠側（[T]）にしたとき
AUTO	–	3 cm – ∞	1.2 m – ∞
上記以外	[A]	5 cm – ∞	1.2 m – ∞
	[マクロ]*	3 – 60 cm	–
	[遠景]*	3 m – ∞	3 m – ∞

* 撮影モードによっては、選択できません。

連続撮影の速さ

撮影モード	速さ
[連写]	A3400 IS A810 約2.7枚/秒 A2300 約2.8枚/秒
P	約0.8枚/秒

シャッタースピード

AUTOモードで自動設定される範囲	1 – 1/2000秒
すべての撮影モードをあわせた範囲	15 – 1/2000秒

絞り

F値	F2.8/F7.9 (W)、F6.9/F20 (T)

A3400 IS A2300

バッテリーパック NB-11L

形式	リチウムイオン充電池
公称電圧	DC 3.6 V
公称容量	680 mAh
充放電回数	約300回
使用温度	0 – 40℃
大きさ	34.6 x 40.2 x 5.2 mm
質量	約13 g

A3400 IS　A2300

バッテリーチャージャー CB-2LD

定格入力	AC 100 V – 240 V（50/60 Hz）
定格出力	DC 4.2 V、0.41 A
充電時間	約2時間（NB-11L充電時）
充電表示	充電中：オレンジ色点灯、充電完了：緑色点灯 (2灯式)
使用温度	5 – 40℃
大きさ	85.0 x 57.6 x 24.3 mm
質量	約59 g

- 記載データはすべて当社試験基準によります。
- 製品の仕様および、外観の一部を予告なく変更することがあります。

注意
指定外のバッテリーを使うと、爆発などの危険があります。使用済みのバッテリーは、各自治体のルールにしたがって処分してください。

バッテリーパック NB-11L

Li-ion

- 不要になった電池は、貴重な資源を守るために廃棄しないで最寄りの電池リサイクル協力店へお持ちください。
  詳細は、一般社団法人JBRCのホームページをご参照ください。
  ホームページ：http://www.jbrc.com
- プラス端子、マイナス端子をテープ等で絶縁してください。
- 被覆をはがさないでください。
- 分解しないでください。

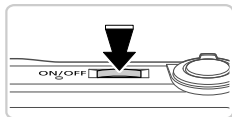
単3形ニッケル水素電池 NB-3AH

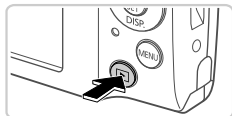
- 不要になった電池は、貴重な資源を守るために廃棄しないで最寄りの電池リサイクル協力店へお持ちください。
  詳細は、一般社団法人JBRCのホームページをご参照ください。
  ホームページ：http://www.jbrc.com
- プラス端子、マイナス端子をテープ等で絶縁してください。
- 被覆をはがさないでください。
- 分解しないでください。

1

カメラを知る

カメラの基本操作や機能を知って使いこなす

電源の入れかた／切りかた

撮影モード

- 電源ボタンを押すと電源が入り、撮影できます。
- 電源ボタンをもう一度押すと、電源が切れます。

再生モード

- ▶ボタンを押すと電源が入り、撮影した画像を見ることができます。
- ▶ボタンをもう一度押すと､電源が切れます。

- 撮影モードの状態で▶ボタンを押すと、再生モードになります。
- 再生モードの状態でシャッターボタンを半押し（p.45）すると、撮影モードになります。
- 再生モードでは、約1分経過するとレンズが収納されます。レンズが収納されているときは、▶ボタンを押すと電源が切れます。

節電機能（オートパワーオフ）

A3400 IS *A2300*

バッテリーの消耗を防ぐため､カメラを操作しない状態で一定の時間がたつと、自動的に画面を消したり、電源を切ったりする機能です。

A810

電池の消耗を防ぐため、カメラを操作しない状態で一定の時間がたつと、自動的に画面を消したり、電源を切ったりする機能です。

撮影モードでの節電機能

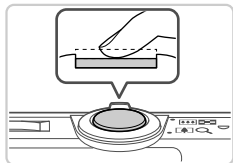
約1分間カメラを操作しないと画面が消え、さらに約2分たつとレンズが収納されて電源が切れます。画面が消えた状態でもレンズが出ているときは、シャッターボタンを半押し（p.45）すると画面が表示され、撮影できます。

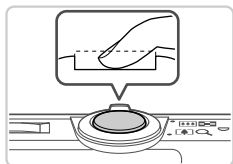
再生モードでの節電機能

約5分間カメラを操作しないと、電源が切れます。

- 節電機能を切ることができます（p.127)。
- 画面が消えるまでの時間を変えられます（p.127)。

シャッターボタンの押しかた

ピントが合った画像を撮るために、必ずシャッターボタンを浅く押す「半押し」をしてピントを合わせてから、「全押し」して撮影します。
なお、シャッターボタンの操作に関する記載は以降「半押し」、「全押し」と表記しています。

1 半押し（浅く押してピントを合わせる）

- 電子音が「ピピッ」と2回鳴り、ピントが合った位置にAFフレームが表示されるまで、浅く押します。

2 全押し（そのまま深く押して撮影する）

▶ シャッター音が鳴り、撮影されます。

- シャッター音が鳴っている間は撮影中のため、カメラを動かさないように注意してください。

- シャッターボタンを半押ししないで撮影すると、ピントが合わない画像になることがあります。
- シャッター音は撮影にかかる時間に応じて長さが変わります。そのため、撮影シーンによってはシャッター音が長くなり、シャッター音が鳴っている間にカメラを動かしたり、被写体が動いたりすると、ブレの原因になりますので注意してください。

撮影時の画面表示の切り換えかた

画面表示は、▼を押して切り換えます。画面に表示される情報の詳細については、p.160を参照してください。

情報表示あり　　　　情報表示なし

- 暗い場所では、自動的に画面が明るくなって構図確認しやすくなります（ナイトビュー機能）。ただし、撮影される画像の明るさとは異なるほか、粗い感じ、またはややぎこちない表示になることがあります（記録される画像に影響はありません）。
- 再生時の画面表示については、p.110を参照してください。

FUNC.（ファンク）の表示と操作方法

撮影時によく使う機能は、FUNC.で設定できます。
なお、表示されるメニュー項目や項目は、選んでいる撮影モード（p.166～167）によって変わります。

1 FUNC.のメニュー項目を表示する

- (FUNC/SET)を押します。

2 メニュー項目を選ぶ

- ▲か▼を押してメニュー項目を選びます。
- ▶ 選んだメニュー項目の項目が、画面の下部に表示されます。

3 項目を選ぶ

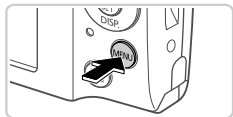
- ◀か▶を押して項目を選びます。
- (MENU)が表示される項目では、MENU ボタンを押して設定することができます。

4 設定を終える

- (FUNC/SET)を押します。
- ▶ 手順1で(FUNC/SET)を押す前の画面に戻り、設定した項目が画面に表示されます。

- 設定を誤って変えてしまったときは、初期状態に戻せます（p.129）。

MENU（メニュー）の表示と操作方法

カメラの各種機能をメニューで設定できます。メニュー項目はタブで撮影［📷］や再生［▶］などの系統に分けられています。なお、表示される項目は、選んでいる撮影モードや再生モード(p.168〜172)によって変わります。

1 MENUを表示する

- MENUボタンを押します。

2 タブを選ぶ

- ズームレバーを動かすか◀か▶を押して、タブを選びます。

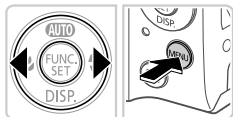
3 項目を選ぶ

- ▲か▼を押して項目を選びます。
- 内容が表示されていない項目では、(FUNC/SET)か▶を押して画面を切り換えたあと、さらに▲か▼を押して項目を選びます。
- MENUボタンを押すと切り替える前の画面に戻ります。

4 内容を選ぶ

- ◀か▶を押して内容を選びます。

5 設定を終える

- MENUボタンを押すと、手順1でMENUボタンを押す前の画面に戻ります。

- 設定を誤って変えてしまったときは、初期状態に戻せます（p.129）。

ランプの表示

カメラ背面のランプ（p.4、p.5）は、カメラの状態に連動して、点灯／点滅状態が変わります。

色	状態	操作状態
緑	点灯	パソコン接続時（p.34）、ディスプレイオフ時（p.44）
	点滅	起動中、カードへの記録／読み出し中、各種通信中、長秒時露光中（p.83）

- ランプ（背面）が緑色に点滅しているときは、次のことは絶対にしないでください。画像、カメラ、カードが壊れることがあります。
  - 電源を切る
  - 振動や衝撃を与える

  A3400 IS　A2300
  - カード／バッテリー収納部のふたを開ける

  A810
  - カード／電池収納部のふたを開ける

2

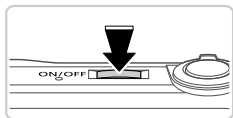
AUTOモード

かんたん操作で手軽に撮ったり、いろいろな機能を
使ってもう少しこだわった画像を撮る

AUTOモードで撮る

静止画

静止画を撮る（こだわりオート）

カメラが被写体や撮影状況を判別するため、シーンに最適な設定でカメラまかせの全自動撮影ができます。

1 電源を入れる

- 電源ボタンを押します。
- ▶ 起動画面が表示されます。

2 AUTOモードにする

- AUTO が表示されるまで、▲を何度か押します。
- カメラを被写体に向けると、シーンを判別するため動作音（カチカチ）がします。
- ▶ 被写体が検出されたときは、フレームが表示されてピントを合わせます。

A3400 IS

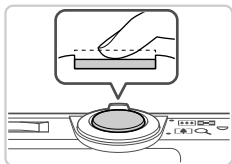
- ▶ 画面の右上にカメラが判別したシーンと手ブレ補正のアイコンが表示されます（p.55、59）。

A2300 **A810**

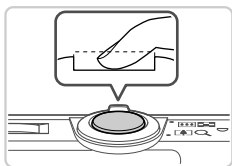
- ▶ 画面の右上にカメラが判別したシーンのアイコンが表示されます（p.55）。

ズームバー

3 撮りたいものの大きさを決める

- ズームレバーを [望遠] 側に押すと撮りたいものが大きくなり、[広角]側に押すと小さくなります（ズームの位置を示すズームバーが表示されます）。

AFフレーム

4 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しして、ピントが合うと電子音が「ピピッ」と2回鳴り、ピントが合った位置にAFフレームが表示されます。
- 複数のAFフレームが表示されたときは、表示されたすべてのAFフレームにピントが合っています。

5 撮影する

- シャッターボタンを全押しします。
- ▶ シャッター音が鳴り、撮影されます（暗いところでは自動的にストロボが光ります）。
- ▶ 撮影した画像は、約2秒間表示されます。
- 画像が表示されている状態でも、シャッターボタンを押すと、次の撮影ができます。

- 電源を入れてカメラを操作しても音が鳴らないときは、▼を押したまま電源を入れたため音が鳴らなくなりました。音が鳴るようにするには、**MENU**ボタンを押して、［🔧］タブの［消音］を選び、◀か▶を押して［しない］を選びます。

- [ ] が点滅表示したときは手ブレしやすいため、カメラが動かないように三脚などでカメラを固定してください。
- ストロボが光ったのに暗い画像になるときは、被写体までの距離が遠すぎます。ストロボ撮影できる範囲については、「主な仕様」（p.38）を参照してください。
- シャッターボタンを半押ししたときに、電子音が「ピッ」と1回鳴るときは、撮りたいものが近すぎる可能性があります。ピントが合う範囲（撮影範囲）は、「主な仕様」（p.38）を参照してください。
- 暗いところでシャッターボタンを半押しすると、ピント合わせのためや人の目が赤く写るのを緩和するため、ランプ（前面）が点灯することがあります。

A3400 IS **A2300**

- 撮影しようとしたときに［⚡］が点滅表示したときは、ストロボ充電中のため撮影できません。充電が終わると撮影できますので、シャッターボタンを全押ししたまま待つか、一度シャッターボタンを離してもう一度押してください。

A810

- 撮影しようとしたときに画面が消えるときは、ストロボ充電中のため撮影できません。充電が終わると撮影できますので、シャッターボタンを全押ししたまま待つか、一度シャッターボタンを離してもう一度押してください。

シーンのアイコン

AUTO モードでは、カメラが判別したシーンを示すアイコンが表示され、ピント合わせや被写体の明るさ、色あいが最適になるよう自動設定されます。

背景＼被写体		人	人：動いているとき	人：顔の一部が暗いとき	人以外の被写体	人以外の被写体：動いているとき	人以外の被写体：近いとき	背景色
明るい					AUTO			灰色
	逆光			–				
青空を含む					AUTO			水色
	逆光			–				
夕景		–					–	オレンジ色
スポットライト								紺色
暗い					AUTO			
	三脚使用時	*	–		*	–		

＊撮影シーンが暗いときに、三脚などでカメラを固定すると表示されます。

- 撮影シーンによっては、実際のシーンと異なるシーンのアイコンが表示されたり、思いどおりの効果、色あい、明るさで撮影できないことがあります。そのときは、**P**モード（p.87）で撮影することをおすすめします。

画面に表示される枠

カメラを被写体に向けて被写体を検出すると、画面上にいろいろな枠が表示されます。

- カメラを被写体に向けると主被写体として検出された顔やものには白の枠、その他の顔には灰色の枠が表示されて、一定の範囲で追尾しピントを合わせ続けます。

  ただし、被写体が動いていると判別したときは、灰色の枠が消えて、白の枠だけになります。
- シャッターボタンを半押しした状態で被写体が動いていると判別したときは、青色の枠が表示されて、ピントと明るさを合わせ続けます（サーボAF）。

- 撮影シーンや被写体によっては、「枠が表示されない」、「撮りたい被写体に枠が表示されない」、「背景などに枠が表示される」ことがあります。そのときは、**P**モード（p.87）で撮影することをおすすめします。

動画

動画を撮る

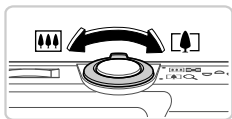
動画ボタンを押すだけで、カメラまかせの動画撮影ができます。

1 撮影の準備をする

- p.52 の手順 1 ～ 3 の操作で、電源を入れて AUTO モードにし、撮りたいものの大きさを決めます。

2 撮影をはじめる

- 動画ボタンを押すと、電子音が「ピッ」と 1 回鳴って撮影がはじまり、[●録画] と撮影時間が表示されます。
- ▶ 画面上下に黒い帯が表示されます。この部分は撮影できません。
- 撮影が始まったら動画ボタンから指を離します。

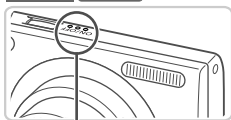
撮影時間

3 撮りたいものの大きさを変えたり、構図を変える

- 撮りたいものの大きさを変えるときは、p.52の手順3と同じ操作で変えます。
  ただし、倍率が青く表示されて画像が粗くなり、操作音は録音されます。
- 撮影中に構図を変えると、ピント位置はそのままで、明るさや色あいは自動的に調整されます。

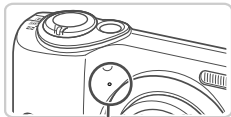
4 撮影を終える

- もう一度動画ボタンを押すと、電子音が「ピピッ」と2回鳴り、撮影が終わります。
- カード容量がいっぱいになると、自動的に撮影が終わります。

- 長時間の動画撮影を繰り返し行うと、カメラの温度が高くなることがありますが故障ではありません。

A3400 IS　A2300

マイク

- 動画撮影するときは、マイクをふさがないよう注意してください。マイクをふさぐと音声が録音されなかったり、こもった音声で録音されることがあります。

A810

マイク

- 動画撮影中に動画ボタン以外を操作すると、操作音が録音されるので、注意してください。
- 動画撮影中に明るさが大きく変わったときは、画面や撮影される動画が明るくなりすぎたり暗くなったりすることがあります。そのときは、撮影を一度止めてから、もう一度撮影してください。

- 音声はモノラルで録音されます。

A3400 IS

静止画 動画

手ブレ補正アイコン

撮影状況に最適な手ブレ補正に自動設定（マルチシーンIS）されます。また、AUTOモードでは以下のアイコンが表示されます。

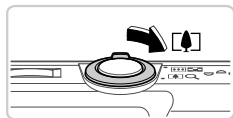
アイコン	説明	アイコン	説明
((手))	静止画を撮影するときの手ブレを補正	((手D))	動画を撮影するときの手ブレを補正し、歩きながら撮影するときなどの大きな手ブレも補正（ダイナミックIS）
((➔))	静止画を流し撮りで撮るときのブレを補正*	((手P))	動画を望遠にして撮影するときなどの、ゆっくりとした手ブレを補正（パワードIS）
((花))	静止画をマクロ撮影するときの手ブレを補正（ハイブリッドIS）	((三脚))	三脚などでカメラを固定したときは、手ブレ補正が不要なため停止

* 動く被写体をカメラで追いながら撮影（流し撮り）するときに表示されます。左右方向に動く被写体を追うと、上下方向の手ブレだけが補正されて、左右方向の補正は停止します。また、上下方向に動く被写体を追うと、左右方向の手ブレだけが補正されます。

よく使う機能や便利な機能を使う

静止画　動画

被写体をもっと拡大する（デジタルズーム）

光学ズームで被写体が大きく撮れないときは、デジタルズームを使って最大約20倍まで拡大できます。

1 ズームレバーを[♠]側に押す

- ズームできるところまでレバーを押したままにします。
- ▶画像が粗くならない最大の倍率になるとズームが止まり、レバーから指を離すとズーム倍率が表示されます。

2 もう一度[♠]側に押す

- ▶デジタルズームで被写体がさらに拡大されます。

- 設定した記録画素数（p.66）とデジタルズームの倍率によっては、ズーム倍率が青色で表示されて画像が粗くなります。

- 光学ズームとデジタルズームをあわせた焦点距離は以下のとおりです（35mmフィルム換算）。
  28 – 560 mm（光学ズーム時は28 – 140 mm）

静止画　動画

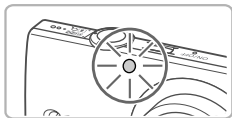
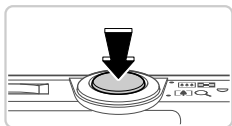
セルフタイマーを使う

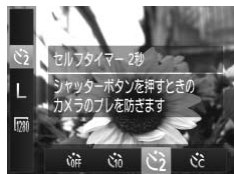
集合写真などで撮影する人も一緒に写るときは、シャッターボタンを押してから約10秒後に撮影されるセルフタイマーを使って撮影します。

1 設定する

- (FUNC/SET) を押して、メニュー項目の［OFF］を選んだあと、項目の［10］を選びます（p.47）。
- ▶ 設定されると［10］が表示されます。

2 撮影する

- 静止画を撮影するときは、シャッターボタンを半押しして被写体にピントを合わせ、シャッターボタンを全押しします。
- 動画を撮影するときは、動画ボタンを押します。
- ▶ タイマーがはじまるとランプ（前面）が点滅して、電子音が鳴ります。
- ▶ 撮影の 2 秒前になると、ランプ（前面）の点滅（ストロボ発光時は点灯）と電子音が速くなります。
- タイマーがはじまったあとに撮影を中止するときは、MENUボタンを押します。
- 戻すときは、手順1の操作で［OFF］を選びます。

セルフタイマーを使って手ブレを防ぐ

シャッターボタンを押してから約2秒後に撮影するため、シャッターボタンを押すときのカメラのブレを防ぐことができます。

設定する

- p.61の手順1の操作で［Ⓢ2］を選びます。
- ▶ 設定されると［Ⓢ2］が表示されます。
- p.61の手順2の操作で撮影します。

セルフタイマーの時間と撮影枚数を変える

撮影されるまでのタイマー時間（0 – 30秒）と、撮影枚数（1 – 10枚）を設定できます。

1 ［ⓈC］を選ぶ

- p.61の手順1の操作で［ⓈC］を選び、MENUボタンを押します。

2 設定する

- ▲か▼を押して［時間］または［枚数］を選びます。
- ◀か▶を押して数値を選び、(FUNC.SET)を押します。
- ▶ 設定されると［ⓈC］が表示されます。
- p.61の手順2の操作で撮影します。

- 動画ボタンを押して撮影したときは、設定した［時間］で撮影がはじまりますが、［枚数］は反映されません。

- 撮影枚数を2枚以上にしたときは、明るさや色あいは1枚目の撮影で固定されます。また、ストロボが光るときや撮影枚数が多いときは撮影間隔が長くなったり、カード容量がいっぱいになると自動的に撮影が終わります。
- タイマー時間を2秒以上にしたときは、撮影の2秒前にランプの点滅（ストロボ発光時は点灯）と電子音が速くなります。

A3400 IS

静止画

画面をタッチして撮る（タッチシャッター）

画面をタッチするだけで被写体にピントと明るさを合わせ、かんたんに撮影することができます。

1 タッチシャッター機能を使えるようにする

- ［ ］をタッチして［ ］にします。

2 ピントを合わせたい被写体を選ぶ

- 画面上の被写体を指で触れたままにします。
- 被写体にピントが合うと電子音が「ピピッ」と2回鳴ります。
  青色のAFフレームが表示され、ピントと明るさを合わせ続けます（サーボAF）。

3 撮影する

- 画面から指を離すとシャッター音が鳴り、撮影されます。
- タッチシャッターを使わないようにするときは、［ ］をタッチして［ ］にします。

- タッチシャッター機能は、シャッターボタンを押したときと同じように動作します。
- タッチシャッターの設定は、MENU ボタンを押すと表示されるメニュー画面で、［ ］タブの［タッチシャッター］を選んで設定することもできます。
- 撮影した画像が表示されている状態でも、［ ］をタッチすると、次の撮影ができます。

静止画

ピントを合わせたい被写体を選ぶ（タッチAF）

タッチシャッター機能が［］のときに、画面上の被写体にタッチして［］を表示したあと、シャッターボタンを半押しすると、青色のAFフレームが表示され、ピントと明るさを合わせ続けます（サーボAF）。シャッターボタンを全押しして撮影します。

静止画

ストロボを光らせない

ストロボを光らせないで撮影することができます。

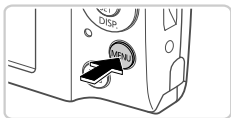
設定する

- ▶を押すと［］が表示されてストロボが光らなくなります。もう一度▶を押すと［⚡^{A}］が表示されて、暗いシーンでは、ストロボが自動的に光ります。

- 手ブレしやすい暗い場所でシャッターボタンを半押しすると、画面に［］が点滅表示されることがあります。そのときはカメラが動かないよう三脚などで固定してください。

静止画

日時を入れる

画像の右下に撮影日時を記録できます。ただし、記録された撮影日時は画像から消せません。あらかじめ日付／時刻が正しく設定されていることを確認してください（p.21）。

1 設定する

- MENU ボタンを押して、［📷］タブの［日付写し込み］を選び、目的の項目を選びます（p.48）。
- ▶ 設定されると［日付］が表示されます。

2 撮影する

- ▶ 撮影した画像の右下に、撮影日または撮影日時が記録されます。
- 戻すときは、手順1の操作で［切］を選びます。

- 撮影日を入れずに撮った画像でも、次の方法で撮影日を入れて印刷できます。ただし、撮影日を入れて撮った画像に、撮影日を入れる指定をすると、重複して印刷されることがあります。
  - 印刷指定（DPOF）機能を使って印刷する（p.146）
  - 付属のソフトウェアを使って印刷する
    「ImageBrowser EXガイド」（p.30）を参照してください。
  - プリンターの機能を使って印刷する（p.140）

自分好みの画像を撮るための機能を使う

静止画

記録画素数（画像の大きさ）を変える

画像の記録画素数を5種類から選べます。それぞれの記録画素数で1枚のカードに撮影できる枚数については「主な仕様」(p.38）を参照してください。

設定する

- FUNC/SETを押して、メニュー項目の［ L ］を選び、目的の項目を選びます（p.47）。
- ▶ 設定した項目が表示されます。
- 戻すときは、上記の操作で［ L ］を選びます。

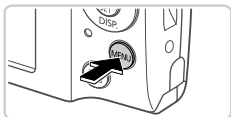
用紙の大きさで選ぶときの目安

- ［ S ］は、電子メールで画像を送るときなどに適しています。
- ［ W ］は、HD（ハイビジョン）対応テレビなどの縦横比が16:9のワイド画面へ表示するときなどに適しています。

- ［ W ］では、デジタルズーム（p.60）は使えません。

静止画

赤目自動補正

ストロボ撮影時に目が赤く写る現象を、自動補正して撮影できます。

設定する

- MENU ボタンを押して、［ ］タブの［赤目自動補正］を選び、［入］を選びます（p.48）
- ▶設定されると［ ］が表示されます。
- 戻すときは、上記の操作で［切］を選びます。

- 化粧などで目の周りが赤いときは、目以外を補正することがあります。

- 撮影した画像を補正することもできます（p.120）。

動画

動画の画質を変える

2種類の画質から選べます。それぞれの画質で1枚のカードに撮影できる時間については「主な仕様」（p.38）を参照してください。

設定する

- FUNC.SET を押して、メニュー項目の［1280］を選んだあと、目的の項目を選びます（p.47）。
- ▶ 設定した項目が表示されます。
- 戻すときは、上記の操作で［1280］を選びます。

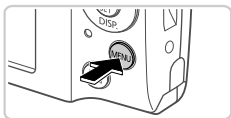
画質	記録画素数	フレーム数	内容
1280	1280 x 720画素	25フレーム/秒	HD（ハイビジョン）画質で撮影できます。
640	640 x 480画素	30フレーム/秒	SD（スタンダード）画質で撮影できます。

- ［1280］では、画面の上下に黒帯が表示されます。この部分は撮影できません。

撮影の手助けとなる機能を使う

静止画

目をつむった人を確認する

撮影時に目をつむった可能性のある人を検出したときは、［ ］を表示してお知らせします。

1 設定する

● MENU ボタンを押して、［ ］タブの［目つむり検出］を選び、［入］を選びます（p.48）。

2 撮影する

▶ 目をつむった人を検出したときは、枠と［ ］が表示されます。

● 戻すときは、手順1の操作で［切］を選びます。

• ［ ］で撮影枚数を 2 枚以上に設定したときは、最後に撮影した画像でのみ動作します。

自分好みに機能を変える

MENUの［📷］タブで、カメラの撮影機能を好みの設定に変えることができます。
なお、メニュー機能の操作方法は、「MENU（メニュー）の表示と操作方法」（p.48）を参照してください。

静止画　動画

ランプを切る

暗いところでの撮影では、シャッターボタンを半押ししたときや動画ボタンを押したときに、ピントを合わせるためにランプ（前面）が点灯します。また、暗いところでのストロボ撮影では、人の目が赤く撮影されることを緩和するため、ランプ（前面）が点灯します。このランプを点灯しないようにすることができます。

設定する

- MENU ボタンを押して、［📷］タブの［ランプ設定］を選び、［切］を選びます（p.48）。
- 戻すときは、上記の操作で［入］を選びます。

静止画

撮影直後の画像表示時間を変える

撮影直後に画像が表示される時間を変えられます。

設定する

- MENUボタンを押して、［📷］タブの［撮影の確認］を選び、目的の項目を選びます（p.48）。
- 戻すときは、上記の操作で［2秒］を選びます。

2〜10秒	設定した時間だけ画像を表示します。
ホールド	シャッターボタンを半押しするまで画像を表示します。
切	画像は表示されません。

3

いろいろな撮影モード

いろいろなシーンをより効果的に撮ったり、ユニークな効果や特殊な機能で演出された画像を撮る

いろいろなシーンで撮る

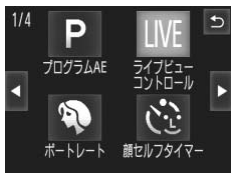
撮影シーンにあったモードを選ぶと、最適な撮影ができるようにカメラが自動的に設定を行います。

1 撮影モードを選ぶ

- ［LIVE］が表示されるまで、▲ を何度か押します。
- (FUNC/SET)を押して、メニュー項目の［LIVE］を選んだあと、目的の項目を選びます（p.47）。

2 撮影する

A3400 IS

タッチパネルを使う

- ▲を押して［LIVE］にしたあと、画面右上の［LIVE］をタッチします。
- ◀ か▶ をタッチしたり、画面を左右方向に素早くドラッグすると、別の撮影モードが表示されます。
- 撮りたいモードをタッチすると、選んだ撮影モードの説明が表示されるので、[OK] をタッチして決定します。
- [↩] をタッチすると撮影モードを選ぶ画面に戻ります。

静止画　動画

人を撮る（ポートレート）

- 人をやわらかい感じで撮影できます。

静止画

暗い場所で撮る（ローライト）

- 暗い場所でも手ブレや被写体ブレをおさえて撮影できます。

静止画　動画

雪景色で撮る（スノー）

- 雪景色を背景に、人を明るく自然な色あいで撮影できます。

静止画　動画

花火を撮る（打上げ花火）

- 打上げ花火を色鮮やかに撮影できます。

静止画　動画

マナーモードで撮る

- ストロボやランプ（前面）が光らず、消音の状態で撮影できます。ストロボの光やカメラを操作したときに鳴る音が制限される場所でカメラをお使いになるときにおすすめします。

- [ ] モードでは手ブレを防ぐため、三脚などでカメラが動かないように固定してください。
  A3400 IS
  三脚などでカメラを固定するときは、[手ブレ補正] を [切] にして撮影することをおすすめします（p.105）。

- [ ] モードでは、記録画素数は [M]（2304 x 1728画素）に固定されます。
- モードに設定すると、再生モードにしても消音の状態のままです。操作音は鳴らず、動画の再生時にも音声は再生されません。

静止画　動画

かんたんに明るさや色あいを変えて撮る（ライブビューコントロール）

明るさ、あざやかさ、色あいをかんたんな操作で自分好みに設定して撮影できます。

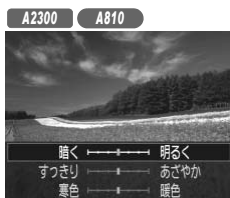
1 LIVEモードにする

- p.72の手順で［LIVE］を選びます。

2 設定する

A2300　A810

- ▼を押して設定画面を表示したあと、▲か▼を押して項目を選び、画面を見ながら◀か▶を押して値を設定します。
- (FUNC SET)を押します。

A3400 IS

- ［☰］をタッチして設定画面を表示します。
- 項目をタッチして選び、画面を見ながら項目をタッチして値を設定し、［↶］をタッチします。

3 撮影する

明るさ	画像の明るさを調整できます。右側にいくほど明るくなり、左側にいくほど暗くなります。
あざやかさ	画像の色調を変更できます。右側にいくほどあざやかな画像に、左側にいくほどすっきりとした画像になります。
色あい	画像の色あいを調整できます。右側にいくほど赤みの強い暖色系の画像になり、左側にいくほど青みの強い寒色系の画像になります。

A2300 A810

静止画

ブレをおさえて撮る（デジタルIS）

手ブレや被写体ブレをおさえて撮影できます。また、人がいないシーンでは、連続撮影した画像を合成することにより、手ブレやノイズを軽減します。

1 モードにする

- p.72の手順1の操作で［ ］を選びます。

2 撮影する

- シャッターボタンを半押ししたときに、人がいないシーンでは画面の左に［ ］が表示されます。
- ［ ］が表示されているときに全押しすると、連続撮影されて画像が合成されます。
- 表示されていないときに全押しすると、1 枚撮影になります。

- ［ ］が表示されたときは、連続撮影するため、撮影中はカメラをしっかり構え続けてください。
- シーンによっては、思いどおりの効果が得られないことがあります。
- ［ ］が表示されたときは、暗いところでもストロボは光りません。
- 人がいるシーンでも、ストロボを［ ］にしているときは連続撮影されます。

- 三脚を使って撮影するときは、AUTO モードで撮影することをおすすめします（p.51）。

効果をつけて撮る

いろいろな効果をつけて撮影することができます。

1 撮影モードを選ぶ

- p.72 の手順 1 の操作で撮影モードを選びます。

2 撮影する

- [ ] [ ] [ ] [ ] [ ] モードでは、シーンによっては思いどおりの効果が得られないことがあるので、事前に試し撮りをすることをおすすめします。

静止画 動画

鮮烈な色で撮る（極彩色）

- 色の濃さを強調して、高彩度の鮮烈な色で撮影できます。

静止画 動画

イラスト風の効果をつけて撮る（オールドポスター）

- 古いポスターのようなイラスト風の効果をつけて撮影できます。

静止画

魚眼レンズのような効果をつけて撮る（魚眼風）

魚眼レンズで撮ったようなデフォルメ効果をつけて撮影します。

1 ［ ］を選ぶ

- p.72の手順1の操作で［ ］を選びます。

A2300 A810

2 効果を選ぶ

- ▼を押したあと、◀か▶を押して効果のレベルを選び FUNC SET ボタンを押します。

- ［ ］をタッチしたあと、◀か▶をタッチして効果のレベルを選び、［ ］をタッチします。
- ▶ 設定した効果で画面が表示されます。

3 撮影する

静止画　動画

ミニチュア模型のように撮る（ジオラマ風）

指定した範囲の上下をぼかして撮ることで、ミニチュア模型のような効果をつけて撮影します。
また、「再生時の速さ」を選んで動画を撮影すると、再生時には風景の中の人やものが早送りで動くので、ミニチュア模型のように見えます。なお、音声は録音されません。

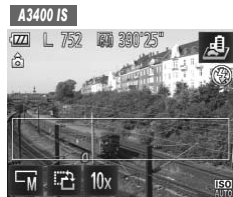
1 ［ ］を選ぶ

- p.72の手順1の操作で［ ］を選びます。
- ▶画面に白い枠（ぼかさない範囲）が表示されます。

2 ピントの合う範囲と位置を指定する

- ▼を押します。
- ズームレバーを動かして枠の大きさを変えたり、▲か▼を押して枠の位置を変えます。
- (FUNC/SET)を押すと撮影画面に戻ります。

A2300　A810

A3400 IS

- ピント位置を変えるときは、画面をタッチするか、白い枠を上下方向にドラッグします。
- ピントの範囲を変えるときは、［M］をタッチして、［S］［M］［L］のいずれかをタッチして選び、［↩］をタッチします。

3 動画を撮るときは再生時の速さを選ぶ

A2300 A810

- 手順2の画面でMENUボタンを押したあと、◀か▶を押して倍速（速さ）を選びます。
- (FUNC/SET)を押すと撮影画面に戻ります。

A3400 IS

- ［10x］をタッチして、［5x］［10x］［20x］のいずれかをタッチして倍速（速さ）を選び、［↩］をタッチします。

4 撮影する

倍速と再生時間の目安（動画を1分間撮影したとき）

倍速	再生時間
5x	約12秒
10x	約6秒
20x	約3秒

- 動画の撮影中は、ズームできません。撮影前に倍率を変えてください。

- カメラを縦位置で構えると、枠の向きが変わります。
- 動画の画質は、静止画の記録画素数で［L］を選んだときは［640］に、［W］を選んだときは［1280］に固定されます（p.66）。

A2300 A810

- 手順2の画面で◀か▶を押すと枠が縦になり、◀か▶を押して位置を変えられます。▲か▼を押すと枠が横に戻ります。

A3400 IS

- 手順 2 の画面で［⟲］をタッチすると枠が縦になり、画面をタッチして位置を変えられます。もう一度［⟲］をタッチすると枠が横に戻ります。

静止画

トイカメラのような効果をつけて撮る（トイカメラ風）

画像の四隅を暗くぼかして、全体の色調を変えることで、トイカメラで撮影したような効果をつけて撮影できます。

1 ［📷］を選ぶ

- p.72の手順1の操作で［📷］を選びます。

2 色調を選ぶ

A2300　A810

- ▼を押したあと、◀か▶を押して色調を選び(FUNC/SET)ボタンを押します。

A3400 IS

- ［☰］をタッチしたあと、◀か▶をタッチして色調を選び、［↶］をタッチします。

▶ 設定した色調で画面が表示されます。

3 撮影する

標準	トイカメラ風の画像になります。
暖色	［標準］より暖色系のトイカメラ風画像になります。
寒色	［標準］より寒色系のトイカメラ風画像になります。

静止画　動画

単色で撮る（モノクロ）

画像を白黒、セピア調、青白にして撮影できます。

1 ［◪］を選ぶ

- p.72の手順1の操作で［◪］を選びます。

2 色調を選ぶ

A2300　A810

- ▼を押したあと、◀か▶を押して色調を選び(FUNC SET)ボタンを押します。

- ［☰］をタッチしたあと、◀か▶をタッチして色調を選び、［↩］をタッチします。

▶ 設定した色調で画面が表示されます。

3 撮影する

白黒	白黒で撮影できます。
セピア	セピア調で撮影できます。
青	青白で撮影できます。

特殊なモードでいろいろな画像を撮る

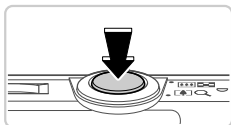
人が増えたら撮る（顔セルフタイマー）

シャッターボタンを押した人が構図に入って顔が検出（p.95）されると、約2秒後に撮影されます。集合写真などで撮影する人も一緒に写りたいときにおすすめです。

1 ［ ］を選ぶ

- p.72の手順1の操作で［ ］を選びます。

2 構図を決めてシャッターボタンを半押しする

- ピントが合った顔には緑色、それ以外の顔には白の枠が表示されていることを確認します。

3 シャッターボタンを全押しする

- 撮影準備に入り［顔が増えたら撮影します］が表示されます。
- ランプ（前面）が点滅し、電子音が鳴ります。

4 一緒に写る人が構図に入り顔をカメラに向ける

- 新しい顔が検出されると、ランプの点滅（ストロボ発光時は点灯）と電子音が速くなり、約2秒後に撮影されます。
- タイマーがはじまったあとに撮影を中止するときは、MENUボタンを押します。

- 一緒に写る人が構図に入っても顔を検出できないときは、約15秒後に撮影されます。

A2300 A810

- ▼を押したあと、◀か▶を押して枚数を選び、(FUNC/SET)を押すと撮影枚数を変えることができます。なお、[目つむり検出]（p.69）は、最後に撮影した画像でのみ動作します。

A3400 IS

- [ ]をタッチしたあと、◀か▶をタッチして枚数を選び、[ ]をタッチすると撮影枚数を変えることができます。なお、[目つむり検出]（p.69）は、最後に撮影した画像でのみ動作します。
- タイマーがはじまったあとに画面をタッチして撮影を中止することもできます。

長秒時露光で撮る（長秒時撮影）

シャッタースピードを1～15秒の範囲に設定して、長秒時露光撮影ができます。なお、手ブレを防ぐため、三脚などでカメラを固定して撮影します。

1 [ ]を選ぶ

- p.72の手順1の操作で[ ]を選びます。

2 シャッタースピードを選ぶ

- (FUNC/SET)を押して、メニュー項目の[1"]を選んだあと、シャッタースピードを選びます（p.47）。

3 露出を確認する

- シャッターボタンを半押しすると、選んだシャッタースピードの露出で画面が表示されます。

4 撮影する

- 手順3でシャッターボタンを半押ししたときの画面の明るさは、撮影される画像と異なることがあります。
- シャッタースピードが1.3秒以上のときは、撮影後にノイズ低減処理を行うため、次の撮影までにしばらく時間がかかります。

A3400 IS

- 三脚などでカメラを固定するときは、[手ブレ補正] を [切] にして撮影することをおすすめします（p.105）。

- ストロボが発光すると、白トビした画像になることがあります。そのときは、ストロボを［⊛］にして撮影します。

A3400 IS

タッチしてシャッタースピードを設定する

- ［1"］をタッチしたあと、◀か▶をタッチしてシャッタースピードを選び、[⮌] をタッチします。

iFrame動画で撮る

iFrameに対応したソフトウェアや機器での編集に適した動画が撮影できます。なお、付属のソフトウェアを使うと、iFrame動画の編集や保存などを高速に行うことができます。

1 ［ ］を選ぶ

- p.72の手順1の操作で［ ］を選び、撮影します。
- ▶画面上下に黒い帯が表示されます。この部分は撮影できません。

2 撮影する

- 動画ボタンを押します。

- 記録画素数は［ ］（p.68）に固定されます。
- iFrameとは、Apple社が提唱する動画タイプです。

4

Pモード

撮影スタイルにあわせた、
ワンランク上の画像を撮る

- Pモードになっていることを前提に説明しています（p.88）。
- Pは、Program AE（プログラムエーイー）の略、AEは、Auto Exposure（オートエクスポージャー）の略で自動露出のことです。
- この章で説明する機能をPモード以外で使うときは、それぞれの機能がどのモードで使えるか確認してください（p.164～171）。

静止画　動画

プログラムAEで撮る（Pモード）

いろいろな機能を自分好みに設定して撮影できます。

1 Pモードにする

- p.72の手順1の操作で［P］を選びます。

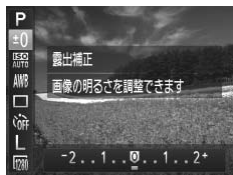
2 目的に応じて各機能を設定（p.88～106）し、撮影する

- シャッターボタンを半押ししたときに適正露出が得られないと、シャッタースピードと絞り数値がオレンジ色で表示されます。次の設定で、適正露出が得られることがあります。
  - ストロボを発光させる（p.101）
  - ISO感度を高くする（p.90）
- P モードでも、動画ボタンを押すと動画が撮影できます。ただし、FUNC. や MENUの一部が動画撮影の設定にあわせて自動的に変わることがあります。
- Pモードでの撮影範囲は、「主な仕様」（p.38）を参照してください。

明るさ（露出）に関する機能を使う

静止画　動画

明るさを変える（露出補正）

カメラが決めた標準的な露出を1/3段ずつ、±2段の範囲で補正できます。

- (FUNC/SET)を押して、メニュー項目の［±0］を選んだあと、◀か▶を押して画面の表示を見ながら明るさを補正します。
- 動画では、露出補正バーが表示された状態で撮影します。
- 静止画では、(FUNC/SET)を押して設定した補正量が表示された状態で撮影します。

- 静止画では、露出補正バーが表示された状態でも撮影できます。
- 動画撮影中は［AEL］が表示され、露出は固定されます。

A3400 IS

- ［±0］をタッチしたあと、◀か▶をタッチして明るさを補正することもできます。

静止画　動画

明るさ（露出）を固定する（AEロック）

露出を固定して撮影したり、ピントと露出を個別に設定して撮影することもできます。

1 [⚡̸] にする（p.101）

2 露出を固定する

- 露出を固定したい被写体にカメラを向け、シャッターボタンを半押ししたまま、▶を押します。
- ▶ [AEL] が表示され、露出が固定されます。
- シャッターボタンから指を離してもう一度 ▶ を押すと、[AEL] が消えて解除されます。

3 構図を決めて撮影する

A3400 IS
- タッチシャッター機能（p.63）と一緒には使えません。

- AEは、Auto Exposure（オートエクスポージャー）の略です。

A3400 IS

タッチパネルを使う

- シャッターボタンを半押ししたまま、画面下部（左の画面の枠内）をタッチすることでも、露出を固定できます。
- シャッターボタンから指を離してもう一度画面をタッチすると、[AEL] が消えて解除されます。

静止画

測光方式を変える

撮影シーンにあわせて、測光方式（明るさを測る特性）を変えられます。

- MENU ボタンを押して、［　］タブの［測光方式］を選び、目的の項目を選びます（p.48）。
- ▶ 設定した項目が表示されます。

評価	逆光撮影を含む一般的な撮影に適しています。撮影シーンに応じて、被写体が常に適正露出になるように自動補正します。
中央部重点平均	画面中央部に重点をおいて、画面全体を平均的に測光します。
スポット	画面中央に表示される［[　]］（スポット測光枠）の範囲のみを測光します。

静止画

ISO感度を変える

- （FUNC SET）を押して、メニュー項目の［ISO AUTO］を選び、目的の項目を選びます（p.47）。
- ▶ 設定した項目が表示されます。

ISO AUTO	撮影モードと撮影シーンに応じて自動設定	
ISO 100 ISO 200	低い	晴天の屋外
ISO 400 ISO 800	↕	曇り空、夕方
ISO 1600	高い	夜景、暗い室内

- ［ISO AUTO］では、シャッターボタンを半押しすると自動設定されたISO感度が画面に表示されます。
- ISO感度を低くすると粗さが目立たない画像になりますが、撮影シーンによっては被写体ブレや手ブレがおきやすくなることがあります。
- ISO感度を高くするとシャッタースピードが速くなるため、被写体ブレや手ブレが軽減されたり、ストロボの光が遠くの被写体まで届くようになりますが、画像が粗くなります。

静止画

明るさを補正して撮る（i-コントラスト）

人の顔や背景など、一部が明るすぎたり暗すぎたりするときは、その部分を検出し、適切な明るさに自動補正して撮影することができます。また、画面全体で明暗差が小さいときは、くっきりした印象となるように自動補正して撮影することができます。

- MENUボタンを押して、［撮影］タブの［i-コントラスト］を選び、項目の［自動］を選びます（p.48）。
- 設定されると［Ci］が表示されます。

- 撮影シーンによっては画像が粗くなったり、正しく補正されないことがあります。

- 撮影した画像を補正することもできます（p.119）。

色や連続撮影に関する機能を使う

静止画　動画

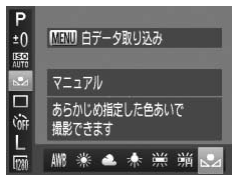
色あいを調整する（ホワイトバランス）

ホワイトバランス（WB）は、撮影シーンにあわせて自然な色あいにする機能です。

- FUNC SETを押して、メニュー項目の［AWB］を選び、目的の項目を選びます（p.47）。
- ▶ 設定した項目が表示されます。

AWB	オート	撮影シーンに応じて自動設定
	太陽光	晴天の屋外
	くもり	曇り空や日陰、薄暮
	電球	電球、電球色タイプ（3波長型）の蛍光灯
	蛍光灯	昼白色蛍光灯、白色蛍光灯、昼白色タイプ（3波長型）の蛍光灯
	蛍光灯H	昼光色蛍光灯、昼光色タイプ（3波長型）の蛍光灯
	マニュアル	マニュアルホワイトバランス（手動設定）（下記）

マニュアルホワイトバランス

撮影場所の光源にあわせてホワイトバランスを変えて、撮影時の光源に適した色あいで撮影できます。撮影場所の光源のもとで設定してください。

- 「色あいを調整する（ホワイトバランス）」（上記）の操作で［マニュアル］を選びます。
- 画面いっぱいに白い無地の被写体が入るようにして、MENUボタンを押します。
- ▶ 白データが取り込まれて設定されると、画面の色あいが変わります。

- 白データを取り込んだあとにカメラの設定を変えると、適切な色あいにならないことがあります。

静止画

連続して撮る

シャッターボタンを全押ししたままにすると、連続撮影ができます。
連続撮影の速度は「主な仕様」（p.38）を参照してください。

1 設定する

● FUNC SET を押して、メニュー項目の［□］を選んだあと、項目の［□］を選びます（p.47）。

▶ 設定されると［□］が表示されます。

2 撮影する

▶ シャッターボタンを全押ししている間、連続撮影されます。

- セルフタイマー（p.61）、［目つむり検出］（p.69）とは一緒に使えません。
- 連続撮影中は、シャッターボタンを半押ししたときのピント位置と露出に固定されます。
- 撮影シーン、カメラの設定、ズーム位置によっては、一定の間隔で撮影されなかったり、連続撮影の速度が遅くなることがあります。
- 撮影枚数が多くなると、連続撮影の速度が遅くなることがあります。
- ストロボが発光するときは、連続撮影の速度が遅くなることがあります。

A3400 IS

- ［□］に設定しても、タッチシャッター機能（p.63）では１枚だけが撮影されます。

- ［ ］モード（p.73）では、連続撮影の速度が速くなります。

撮影範囲やピント合わせに関する機能を使う

静止画　動画

近くの被写体を撮る（マクロ撮影）

［🌷］に設定すると、近いものだけにピントを合わせます。ピントが合う範囲は「主な仕様」（p.38）を参照してください。

- ◀を押したあと、◀か▶を押して［🌷］を選び、(FUNC SET)を押します。
- ▶ 設定されると［🌷］が表示されます。

- ストロボが発光すると、画像の周辺部が暗くなることがあります。
- ズームバーの下にある黄色のバー表示の範囲は、［🌷］が灰色表示になりピントが合いません。

A3400 IS

- AFフレームモードが［顔優先AiAF］のときにタッチシャッター機能やタッチAF機能を使うと［▲］に戻ります。

- 手ブレを防ぐため、三脚などでカメラを固定し、［⏲2］で撮影することをおすすめします（p.62）。

静止画　動画

遠くの被写体を撮る（遠景撮影）

［▲］に設定すると、遠いものだけにピントを合わせます。ピントが合う範囲は「主な仕様」（p.38）を参照してください。

- ◀を押したあと、◀か▶を押して［▲］を選び、(FUNC SET)を押します。
- ▶ 設定されると［▲］が表示されます。

A3400 IS

- AFフレームモードが［顔優先AiAF］のときにタッチシャッター機能やタッチAF機能を使うと［⛰］に戻ります。

静止画 動画

AFフレームモードを変える

撮影シーンにあわせて、AF（自動ピント合わせ）フレームモードを変えられます。

- MENUボタンを押して、［📷］タブの［AFフレーム］を選び、目的の項目を選びます（p.48）。

静止画 動画

顔優先AiAF

- 人の顔を検出して、ピント、露出（評価測光時のみ）、色あい（［AWB］時のみ）を合わせます。
- カメラを被写体に向けると、主被写体と判断した顔に白のフレーム、他の顔には最大2つの灰色のフレームが表示されます。
- 検出した顔が動いていると判別したときは、一定の範囲で追尾します。
- シャッターボタンを半押しすると、ピントが合った顔には緑色のフレーム（最大9個）が表示されます。

- 顔が検出されないときや、白のフレームが表示されず灰色のフレームのみが表示されたときは、シャッターボタンを半押しすると、ピントの合った位置に緑色のフレーム（最大9個）が表示されます。
- サーボAF（p.98）が［入］で顔が検出されないときに、シャッターボタンを半押しすると中央にフレームが表示されます。
- 顔として検出できない例
  - 被写体までの距離が遠い、または極端に近い。
  - 被写体が暗い、または明るい。
  - 顔が横や斜めを向いている、または一部が隠れている。

- 人の顔以外を、誤って検出することがあります。
- シャッターボタンを半押ししてピントが合わないときは、AFフレームは表示されません。

A2300 A810

静止画 動画

中央

AFフレームが中央1点になります。確実なピント合わせに有効です。

A3400 IS

静止画 動画

一点

AFフレームが1点になります。確実なピント合わせに有効です。

- シャッターボタンを半押ししてピントが合わないときは、黄色のAFフレームと［ ］が表示されます。また、ピント位置の拡大表示（p.103）はできません。

静止画

構図を変えて撮る（フォーカスロック撮影）

シャッターボタンを半押ししている間はピントと露出が固定され、そのまま構図を変えて撮影できます。これをフォーカスロック撮影といいます。

1 ピントを合わせる

- 撮りたいものを画面の中央にして、シャッターボタンを半押しします。
- AFフレームが、被写体に緑色で表示されていることを確認します。

2 構図を変える

- シャッターボタンを半押ししたまま、カメラを動かして構図を変えます。

3 撮影する

- シャッターボタンを全押しします。

A2300 A810

静止画

ピントを合わせたい被写体を選んで撮る（キャッチAF）

ピントを合わせたい被写体を選んで、撮影できます。

1 ［キャッチAF］を選ぶ

- 「AF フレームモードを変える」（p.95）の操作で［キャッチAF］を選びます。
- ▶ 画面中央に［⊹］が表示されます。

2 ピントを合わせたい被写体を選ぶ

- 被写体に［⊹］が重なるようにカメラを動かして◀を押します。

- ▶ 被写体が検出されると電子音が鳴り、［⌜ ⌝］枠が表示されます（動いていても一定の範囲で追い続けます）。
- ▶ 被写体が検出できなくなったときは、［⊹］が表示されます。
- 解除するときは、もう一度◀を押します。

3 撮影する

- シャッターボタンを半押しすると、［⌜ ⌝］が青色の［□］に変わり、被写体を追い続けながら、ピントと露出を合わせ続けます（サーボAF）（p.98）。
- シャッターボタンを全押しして撮影します。
- ▶ 撮影後も［⌜ ⌝］が表示され、被写体を追い続けます。

- ［サーボAF］（下記）は［入］に固定されます。
- 被写体が小さすぎる、動きが速い、被写体と背景との明暗差や色の差が小さいときは、追尾できないことがあります。
- メニューの［◼］タブの［ピント位置拡大］は設定できません。
- ［✿］［▲］は設定できません。

- ◀を押さずにシャッターボタンを半押ししても被写体を検出できます。撮影後は、画面中央に［⌖］が表示されます。

静止画

サーボAFで撮る

シャッターボタンを半押ししている間は被写体にピントと露出を合わせ続けるため、動いている被写体のシャッターチャンスを逃さずに撮影できます。

1 設定する

- MENU ボタンを押して、［◼］タブの［サーボAF］を選び、［入］を選びます（p.48）。

2 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押ししている間、青色でAFフレームが表示され、ピントと露出を合わせ続けます。

- 撮影シーンによっては、ピントが合わなくなることがあります。
- 暗い場所では、シャッターボタンを半押ししてもAFフレームが青色にならないときがあります。そのときは、設定しているAFフレームモードでピントと露出を合わせます。
- 適正露出が得られなくなると、シャッタースピードと絞り数値がオレンジ色で表示されます。いったんシャッターボタンから指を離して、もう一度シャッターボタンを半押ししてください。
- AFロック撮影はできません。
- メニューの［◼］タブの［ピント位置拡大］は設定できません。
- セルフタイマー（p.61）使用時は設定できません。

A3400 IS

静止画

ピントを合わせたい被写体を選んで撮る（タッチAF）

目的の人の顔や被写体を選んだり、画面上の位置を指定してピントを合わせ、撮影できます。

1 ピントを合わせたい顔、被写体または位置を選ぶ

- 画面上の人や被写体にタッチします。

- ▶ AF フレームモードが［顔優先 AiAF］のときは、被写体として認識すると電子音が鳴り、［ ］枠が表示されます（動いていてもピントを合わせ続けます）。
- ▶ AF フレームモードが［一点］のときは、タッチした位置にAFフレームが表示されます。
- 解除するときは、［ ］をタッチします。

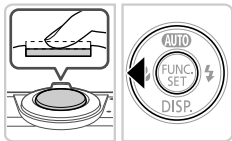
2 撮影する

- シャッターボタンを半押しすると、ピントが合っている枠が緑色の［ ］に変わります。
- シャッターボタンを全押しして撮影します。

- タッチすると撮影されるときは、画面の［ ］をタッチして［ ］（p.63）にします。
- タッチしたときに画面全体に四角の枠が表示されるときは、四角の枠内に顔や被写体を入れてからタッチしてください。
- 被写体が小さすぎたり動きが速いときや、被写体と背景との明暗差が小さいときは、追尾できないことがあります。

静止画　動画

AFロックで撮る

ピントを固定できます。固定後はシャッターボタンから指を離しても、ピント位置は固定されたままになります。

1 ピントを合わせて固定する

- シャッターボタンを半押ししたまま、◀を押します。
- ▶ピントが固定され、［AFL］が表示されます。
- シャッターボタンから指を離してもう一度 ◀ を押すと、［AFL］が消えて解除されます。

2 構図を決めて撮影する

A3400 IS

- タッチシャッター機能（p.63）と一緒には使えません。

A3400 IS

タッチパネルを使う

- シャッターボタンを半押ししたまま、画面（左の画面の枠内）をタッチすることでも、ピントを固定できます。
- シャッターボタンから指を離してもう一度画面をタッチすると、［AFL］が消えて解除されます。

ストロボに関する機能を使う

ストロボモードを変える

撮影シーンにあわせて、ストロボモードを変えられます。

- ▶を押したあと、◀か▶を押してストロボモードを選び、(FUNC. SET)を押します。
- ▶ 設定した項目が表示されます。

オート

暗いところでは自動的にストロボが光ります。

常時発光

ストロボを常に発光させて撮影できます。ストロボ撮影できる範囲については、「ストロボ調光範囲」（p.40）を参照してください。

スローシンクロ

人などの主被写体は、ストロボが発光することで明るく撮影され、ストロボの光が届かない背景は、シャッタースピードを遅くすることで暗くなるのを軽減することができます。

- ストロボが光っても、シャッター音が鳴り終わるまでは主被写体が動かないようにしてください。
- 手ブレを防ぐため、三脚などでカメラが動かないように固定してください。

A3400 IS

- 三脚などでカメラを固定するときは、［手ブレ補正］を［切］にすることをおすすめします（p.105）。

発光禁止

ストロボを光らせないで撮影することができます。

- 手ブレしやすい暗い場所でシャッターボタンを半押しすると、画面に［ ］が点滅表示されることがあります。そのときはカメラが動かないよう三脚などで固定してください。

FEロックで撮る

ストロボ撮影時の露出を、AEロック撮影（p.89）と同様に固定できます。

1 ［⚡］にする（p.101）

2 ストロボ露出を固定する

● 露出を固定したい被写体にカメラを向け、シャッターボタンを半押ししたまま、▶を押します。

▶ ストロボが発光し、［FEL］が表示され、ストロボ発光量が記憶されます。

● シャッターボタンから指を離してもう一度▶を押すと、［FEL］が消えて解除されます。

3 構図を決めて撮影する

A3400 IS

• タッチシャッター機能（p.63）と一緒には使えません。

• FEは、Flash Exposure（フラッシュエクスポージャー）の略です。

A3400 IS

• AEロック（p.89）と同様に、画面下部をタッチしてストロボ露出を固定することもできます。

撮影スタイルにあわせて機能を変える

静止画　動画

デジタルズームを使わない

デジタルズーム（p.60）を使わないようにすることができます。

設定する

- MENU ボタンを押して、［📷］タブの［デジタルズーム］を選び、［切］を選びます（p.48）。

静止画

ピント位置を拡大表示する

シャッターボタンを半押ししたときに、AFフレームの位置を拡大表示してピントを確認することができます。

1 設定する

- MENUボタンを押して、［📷］タブの［ピント位置拡大］を選び、［入］を選びます（p.48）。

2 ピントを確認する

- シャッターボタンを半押しすると、主被写体として検出された顔が、拡大表示されます。
- 戻すときは、手順1の操作で［切］を選びます。

A2300 A810

- ［顔優先AiAF］で、顔が検出できないときや、顔が画面に対して大きいとき、［中央］でピントが合わないときは、シャッターボタンを半押ししても拡大表示されません。

A3400 IS

- ［顔優先AiAF］で、顔が検出できないときや、顔が画面に対して大きいとき、［一点］でピントが合わないときは、シャッターボタンを半押ししても拡大表示されません。

- デジタルズーム（p.60）やキャッチAF（p.97）をしているときは拡大表示されません。

静止画

撮影直後の画面表示を変える

撮影直後の画像表示を変えることができます。

設定する

- MENUボタンを押して、［📷］タブの［レビュー情報］を選び、目的の項目を選びます（p.48）。

非表示	撮影した画像だけを表示します。
詳細表示	詳細情報表示（p.162）になります。

静止画　動画

グリッドラインを表示する

撮影のときに垂直、水平の目安になる格子線を画面上に表示することができます。

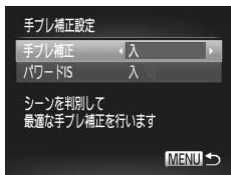
設定する

- MENUボタンを押して、[撮影] タブの［グリッドライン］を選び、[入] を選びます (p.48)。
- ▶ 設定されると格子線が表示されます。
- 戻すときは、上記の操作で［切］を選びます。

- 「グリッドライン」は画像に記録されません。

A3400 IS

静止画　動画

手ブレ補正の設定を変える

1 設定画面を表示する

- MENU ボタンを押して、[撮影] タブの［手ブレ補正設定］を選び、(FUNC./SET)を押します (p.48)。

2 設定する

- ［手ブレ補正］を選んでから、目的の項目を選びます （p.48）。

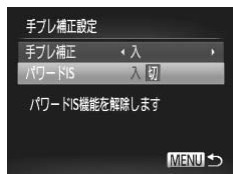
入	撮影状況に最適な手ブレ補正に自動設定（マルチシーンIS）されます（p.59）。
撮影時*	撮影される瞬間のみ手ブレを補正します。
切	手ブレ補正を切ります。

* 動画を撮影するときは、［入］の設定に変わります。

- 手ブレを補正しきれないときは、三脚などでカメラを固定してください。また、三脚などでカメラを固定するときは、［切］にすることをおすすめします。

動画

パワードIS 機能を切る

パワードIS は、動画を望遠にして撮影するときのゆっくりとした手ブレを補正します。ただし、歩きながら撮影するときや被写体の動きにあわせてカメラを大きく動かしたときなどは、思いどおりの効果が得られないことがあります。そのようなときは、パワードIS を［切］に設定します。

- 「手ブレ補正の設定を変える」（p.105）の操作で［手ブレ補正設定］画面を表示します。
- ［パワード IS］を選んでから、［切］を選びます（p.48）。

- ［手ブレ補正］が［切］のときは、［パワードIS］の設定は反映されません。

5

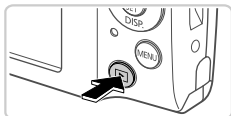
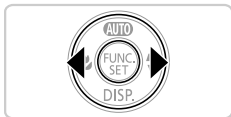
再生モード

撮った画像を見て楽しんだり、いろいろな機能を使って画像の検索や編集をする

- ▶ボタンを押して、再生モードにしてから操作してください。

パソコンで編集した画像やファイル名を変えた画像、このカメラ以外で撮影した画像は、再生や編集ができないことがあります。

見る

撮影した画像を画面で見ることができます。

1 再生モードにする

- ▶ボタンを押します。
- ▶ 最後に撮影した画像が表示されます。

2 画像を選ぶ

- ◀を押すと前の画像が表示され、▶を押すと次の画像が表示されます。
- ◀か▶を押したままにすると、画像が速く切り換わります。ただし、表示画像は粗くなります。

- 動画では、［SET 🎥］が表示されます。動画を再生するときは手順3に進みます。

3 動画を再生する

- (FUNC/SET)を押して動画操作パネルを表示し、◀か▶を押して［▶］を選び、もう一度(FUNC/SET)を押すと再生がはじまります。

4 音量を調整する

- ▲か▼を押して調節します。

5 一時停止する

- FUNC/SETを押すと一時停止し、動画操作パネルが表示されます。◀か▶を押して［▶］を選び、FUNC/SETを押すと再開します。
- ▶ 再生が終わると［SET 動画］が表示されます。

- 再生モードの状態でシャッターボタンを半押しすると撮影モードになります。
- 前回最後に見た画像から表示したいときは、MENU ボタンを押して［▶］タブの［再生開始位置］を選び、［前回の画像］を選びます。
- 画像を切り換えたときの効果を変えるには、MENU ボタンを押して［▶］タブの［再生効果］を選び、◀か▶を押して効果を選びます。

A3400 IS

タッチパネルを使う

静止画 動画

画像を選ぶ

- 画面を左方向にドラッグすると次の画像が表示され、右方向にドラッグすると前の画像が表示されます。

動画

動画を再生する

- 動画を選んで［▶］をタッチすると再生がはじまります。
- 再生中に画面をタッチすると一時停止し、左の画面が表示されます。
- ［🔊］をタッチすると音量パネルが表示され、▲か▼をタッチすると音量を変えられます。音量が0のときは［🔈］が表示されます。
- スクロールバーをタッチしたり、左右方向にドラッグしたりすると、表示するフレームを変えられます。

静止画　動画

表示を切り換える

画面表示は、▼を押して切り換えます。画面に表示される情報の詳細については、p.162を参照してください。

情報表示なし　簡易情報表示　詳細情報表示

- 撮影直後の画面表示も、▼を押して切り換えられます（AUTO モードでの撮影時を除く）。ただし、簡易情報表示にはなりません。最初に表示される画面は、MENUボタンを押して［📷］タブの［レビュー情報］で変えられます（p.104）。

高輝度（ハイライト）警告

「詳細情報表示」にすると、画像上の白トビした部分が点滅表示されます。

ヒストグラム

- 「詳細情報表示」のグラフは、画像中の明るさの分布を示したヒストグラムというグラフです。横軸は明るさ、縦軸は明るさごとの量を示していて、露出の傾向を確認できます。

画像を探したり、特定の画像だけを見る

一覧表示（インデックス表示）で画像を探す

複数の画像を一覧で表示して、目的の画像を素早く探せます。

1 一覧表示にする

- ズームレバーを ▦ 側に押すと一覧表示になり、さらに押すと表示される画像の数が増えます。
- ズームレバーをQ側に押すごとに、表示される画像の数が減ります。

2 画像を選ぶ

- ▲▼◀▶を押して画像を選びます。
- ▶ 選ばれている画像にはオレンジ色の枠が表示されます。
- (FUNC SET)を押すと選ばれている画像が1枚表示になります。

A3400 IS

タッチパネルを使う

一覧表示では、画面をタッチして画像を選ぶことができます。

- 画面を上下方向にドラッグすると、指の動きに合わせて表示が切り換わります。
- 画像をタッチして選び、もう一度タッチすると、タッチした画像が1枚表示になります。
- 画像をタッチして選び、ズームレバーを Q 側へ押したままにすることでも、1枚表示にできます。

ジャンプ表示で画像を探す

カード内に多くの画像があるときは、指定した単位で画像をとばせます。

現在再生中の画像の位置

1 ジャンプ方法を選ぶ

- MENUボタンを押して、［▶］タブの［検索ジャンプ］を選びます（p.48）。
- ▲か▼を押して目的のジャンプ方法を選びます。
- ▶ 画面の下部にジャンプ方法と、現在再生している画像の位置が表示されます。

2 画像を切り換える

- ◀か▶を押すと、選んだジャンプ方法で画像が切り換わります。
- MENUボタンを押すと、メニュー画面に戻ります。

日付ジャンプ	各撮影日の先頭画像を表示
10枚ジャンプ	画像を10枚ずつとばして表示
100枚ジャンプ	画像を100枚ずつとばして表示
静止画ジャンプ	静止画のみ表示
動画ジャンプ	動画のみ表示

・［ ］［ ］以外は、ジャンプ方法と一致する画像枚数が画面右側に表示されます。

- 目的のジャンプ方法と一致する画像がないときは、◀か▶を押しても機能しません。

いろいろな方法で画像を見る

静止画

拡大して見る

表示位置の目安

1 拡大する

- ズームレバーをQ側に押すと拡大表示になり［SET ⊡］が表示されて、押し続けると最大約10倍まで拡大できます。
- ズームレバーを ■ 側に押すと縮小表示になり、押し続けると1枚表示に戻ります。

2 表示位置を移動したり、画像を切り換える

- ▲▼◀▶を押すと、表示位置が移動します。
- ［SET ⊡］が表示されている状態で(FUNC SET)を押すと［SET ⊡］表示に切り換わり、◀か▶を押すと拡大したまま画像を切り換えられます。もう一度(FUNC SET)を押すともとに戻ります。

- 拡大表示のときにMENUボタンを押すと、1枚表示に戻すことができます。

A3400 IS

タッチパネルを使う

- 画面をタッチすると拡大表示になり、［⊕］と［⊖］が表示されます。
- 繰り返しタッチすると、タッチした位置を中心に最大約10倍まで拡大できます。
- ［⊕］や［⊖］をタッチすることでも、拡大、縮小ができます。［⊕］や［⊖］をタッチしたままにすると、連続して拡大、縮小ができます。
- 画面をドラッグすると、表示位置が移動します。
- ［⮌］をタッチすると1枚表示に戻ります。

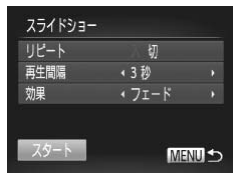
- ［SET ⊡］が表示されているときは、タッチでの操作はできません。

静止画　動画

スライドショーで見る

カードに記録されている画像を自動的に再生します。

1 設定画面を表示する

- MENU ボタンを押して、[▶] タブの［スライドショー］を選びます（p.48）。

2 設定する

- 設定するメニュー項目を選び、目的の項目を選びます（p.48）。

3 自動再生をはじめる

- ▲か▼を押して［スタート］を選び、(FUNC/SET)を押します。
- ▶［画像読み込み中］が数秒間表示されたあと、スライドショーがはじまります。
- MENUボタンを押すと終わります。

- スライドショー中に節電機能（p.44）は働きません。

- 再生中に(FUNC/SET)を押すと一時停止／再開ができます。
- 再生中に◀か▶を押すと画像を切り換えられ、◀か▶を押したままにすると早送りできます。

保護する

大切な画像をカメラの消去機能（p.116）で誤って消さないよう、保護することができます。

1 ［保護］を選ぶ

- MENUボタンを押して、［▶］タブの［保護］を選びます（p.48）。

2 画像を選ぶ

- ◀か▶を押して画像を選び、(FUNC SET)を押すと［🔑］が表示されます。
- もう一度(FUNC SET)を押すと［🔑］が消え、解除されます。
- 別の画像も選ぶときは、上記の操作を繰り返します。

3 保護する

- MENU ボタンを押すと確認画面が表示されます。
- ◀か▶を押して［OK］を選び、(FUNC SET)を押します。

- カードを初期化（p.124、125）すると、保護された画像も消えます。
- 手順3の操作をする前に、撮影モードに切り換えたり電源を切ったときは、保護されません。

- 保護された画像は、カメラの消去機能では消えません。画像を消すときは、保護を解除してください。

消す

不要な画像を1枚ずつ選んで消せます。消した画像はもとに戻すことはできません。十分に確認してから消してください。

1 消したい画像を選ぶ

- ◀か▶を押して画像を選びます。

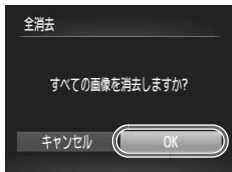
2 消す

- ▲を押します。
- ［消去？］が表示されたら、◀か▶を押して［消去］を選び、(FUNC SET)を押します。
- ▶ 表示していた画像が消えます。
- 中止するときは、◀か▶を押して［キャンセル］を選び、(FUNC SET)を押します。

まとめて消す

すべての画像をまとめて消すことができます。消した画像は復元できないので、十分に確認してから消してください。ただし、保護された画像（p.115）は消えません。

1 ［全消去］を選ぶ

- MENU ボタンを押して、［▶］タブの［全消去］を選びます（p.48）。

2 すべての画像を消す

- ◀か▶を押して［OK］を選び、(FUNC SET)を押します。

回転する

画像の向きを変えて保存することができます。

1 [回転] を選ぶ

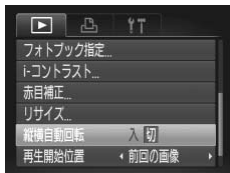
- MENUボタンを押して、[▶] タブの [回転] を選びます(p.48)。

2 回転する

- ◀か▶を押して画像を選びます。
- (FUNC/SET)を押すたびに90度単位で回転します。
- MENU ボタンを押すとメニュー画面に戻ります。

- 画質が [1280] の動画は回転できません。
- [縦横自動回転] が [切] のときは回転できません。

自動回転機能を切る

縦位置で撮影した画像をカメラで見るときは、自動回転して縦位置で表示されます。この機能を使わないようにできます。

- MENU ボタンを押して、[▶] タブの [縦横自動回転] を選び、項目の [切] を選びます(p.48)。

- [切] にすると、画像の回転はできません。また、すでに回転させていた画像も、もとの向きで表示されます。

静止画を編集する

- 静止画の編集機能（p.118～120）は、カードに空き容量がないと使えません。

画像を小さくする（リサイズ）

撮影した画像を小さな記録画素数にして、別画像として保存できます。

1 ［リサイズ］を選ぶ

- MENU ボタンを押して、［▶］タブの［リサイズ］を選びます（p.48）。

2 画像を選ぶ

- ◀か▶を押して画像を選び、FUNC.SETを押します。

3 大きさを選ぶ

- ◀か▶を押して大きさを選び、FUNC.SETを押します。
- ▶［新規保存しますか?］が表示されます。

4 新規保存する

- ◀か▶を押して［OK］を選び、FUNC.SETを押します。
- ▶別画像として保存されます。

5 画像を確認する

- MENUボタンを押すと［保存した画像を表示します］が表示されます。
- ◀か▶を押して［はい］を選び、FUNC.SETを押します。
- ▶保存した画像が表示されます。

- 記録画素数が［W］の画像（p.66）や、手順3で［XS］にした画像は、編集できません。

- 撮影した画像の記録画素数よりも大きくはできません。

明るさを補正する（i-コントラスト）

人の顔や背景など、一部が暗く撮影された画像は、その部分を検出し、最適な明るさに自動補正します。また、画像全体で明暗差が小さい画像は、くっきりした印象となるように自動補正します。補正方法は4種類から選べ、別画像として保存できます。

1 ［i-コントラスト］を選ぶ

- MENUボタンを押して、［▶］タブの［i-コントラスト］を選びます（p.48）。

2 画像を選ぶ

- ◀か▶を押して画像を選び、(FUNC/SET)を押します。

3 項目を選ぶ

- ◀か▶を押して項目を選び、(FUNC/SET)を押します。

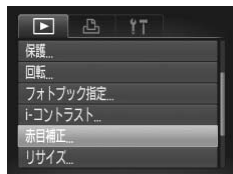
4 新規保存して画像を確認する

- p.118の手順4～5の操作を行います。

- 画像によっては、画像が粗くなったり、正しく補正されないことがあります。
- 同じ画像に対して補正を繰り返すと、画像が粗くなることがあります。

- ［自動］で思いどおりに補正されないときは、［弱］［中］［強］のいずれかを選んで補正します。

赤目を補正する

目が赤く撮影されてしまった画像の赤目部分を自動的に補正して、別画像として保存できます。

1 ［赤目補正］を選ぶ

- MENU ボタンを押して、［▶］タブの［赤目補正］を選びます（p.48）。

2 画像を選ぶ

- ◀か▶を押して画像を選びます。

3 補正する

- (FUNC. SET)を押します。
- ▶ 検出された赤目部分が補正され、補正した部分に枠が表示されます。
- 「拡大して見る」（p.113）の操作で画像を拡大／縮小できます。

4 新規保存して画像を確認する

- ▲▼◀▶を押して［新規保存］を選び、(FUNC. SET)を押します。
- ▶ 別画像として保存されます。
- p.118の手順5の操作を行います。

- 画像によっては、正しく補正されないことがあります。
- 手順4で［上書き保存］を選んだときは、補正内容で上書きされるため、補正前の画像は残りません。
- 保護されている画像は上書き保存できません。

6

設定メニュー

カメラの基本機能を変えて使いやすくする

カメラの基本機能を変える

メニューの［🔧］タブで設定します。ふだん使う上での便利な機能を自分好みに設定することができます（p.48）。

音を鳴らさない

カメラの各種動作音や動画再生時の音声を鳴らさないようにできます。

- ［消音］を選び、［する］を選びます。

- ▼を押したまま電源を入れても、音を鳴らさないようにできます。
- 音を鳴らさないようにしたときは、動画を再生したとき（p.108）の音声も鳴らなくなります。動画再生中に▲を押すと音声が鳴り、▲か▼を押すと音量を調整できます。
- ［］モード（p.73）では、音の設定は変えられません。

音量を変える

カメラの各種動作音の音量を変えられます。

- ［音量］を選び、(FUNC/SET)を押します。
- 項目を選び、◀か▶を押して音量を変えます。

機能の説明を表示しない

FUNC.メニュー（p.47）で項目を選ぶと、機能の説明が表示されます。この説明を表示しないようにすることができます。

● ［機能ガイド］を選び、［切］を選びます。

画面の明るさを変える

画面の明るさを変えられます。

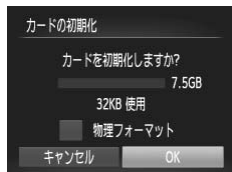
● ［液晶の明るさ］を選び、◀か▶を押して明るさを変えます。

起動画面を表示しない

電源を入れたときに、起動画面を表示しないようにできます。

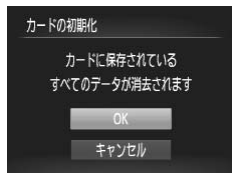
● ［起動画面］を選び、［切］を選びます。

カードを初期化する

新しく買ったカードや他のカメラやパソコンで初期化したカードは、このカメラで初期化（フォーマット）することをおすすめします。
初期化するとカード内のすべてのデータは消され、もとに戻すことはできません。カード内の画像をパソコンにコピーするなどしてから初期化をしてください。

1 ［カードの初期化］画面を表示する

- ［カードの初期化］を選び(FUNC/SET)を押します。

2 ［OK］を選ぶ

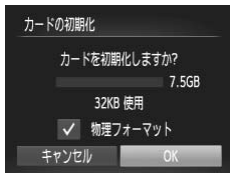
- ◀か▶ を押して［OK］を選び、(FUNC/SET)を押します。

3 初期化する

- ▲か▼を押して［OK］を選び、(FUNC/SET)を押すと初期化がはじまります。
- 初期化が終わると［カードの初期化が完了しました］が表示されるので、(FUNC/SET)を押します。

- カード内のデータは、初期化や消去をしてもファイル管理情報が変わるだけで、完全には消えません。カードを譲渡や廃棄するときは注意してください。廃棄するときはカードを破壊するなどして、個人情報の流出を防いでください。

- 初期化の画面で表示されるカードの総容量は、カードに表記されている容量よりも少なくなることがあります。

カードを物理フォーマット（初期化）する

［カードが異常です］のメッセージが表示されたとき、カメラが正しく動作しない、カードへの画像記録／再生時の読み出しや連続撮影速度が遅くなった、動画撮影が途中で止まるなどのときに行います。物理フォーマットをすると、カード内のすべてのデータは消され、もとに戻すことはできません。カード内の画像をパソコンにコピーするなどしてから物理フォーマットをしてください。

物理フォーマットする

- p.124の手順2の画面で、▲か▼を押して［物理フォーマット］を選び、◀か▶を押して［✓］を表示します。
- ▲▼◀▶を押して［OK］を選び、(FUNC./SET)を押したあと、p.124の手順3の操作で、初期化（物理フォーマット）します。

- 物理フォーマットはカード内の全記憶領域を初期化するため、「カードを初期化する」（p.124）よりも時間がかかります。
- 物理フォーマット中に［中止］を選ぶと、初期化を中止できます。中止してもデータはすべて消去されますが、カードは問題なく使えます。

画像番号のつけかたを変える

撮影した画像には、撮影した順に0001～9999の番号がつけられ、1つのフォルダに2000枚ずつ保存されます。この画像番号のつけかたを変えることができます。

● ［画像番号］を選び、内容を選びます。

通し番号	画像番号9999の画像が撮影／保存されるまでは、カードを変えて撮影しても連番になります。
オートリセット	カードを変えたり、フォルダが新しく作られたときは、画像番号が0001に戻ります。

- ［通し番号］［オートリセット］とも、変えるカードに画像が入っているときは、その画像番号の続き番号になることがあります。画像番号0001の画像から順に保存したいときは、初期化（p.124）したカードをお使いください。
- フォルダ構造や保存される画像については、「ImageBrowser EXガイド」（p.30）を参照してください。

フォルダを撮影日ごとに作る

撮影した画像を保存するフォルダは月ごとに作成されますが、撮影日ごとに作成することもできます。

● ［フォルダ作成］を選び、［毎日］を選びます。

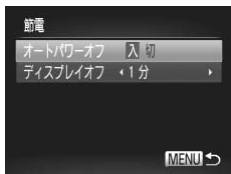
▶ 撮影日ごとに新しいフォルダが作られ、撮影した画像が保存されます。

レンズ収納時間を変える

撮影状態から▶ボタンを押して約1分経過すると、安全のためレンズが収納されます（p.44）。▶ボタンを押すとすぐにレンズが収納されるようにしたいときは、収納時間を［0秒］に設定します。

- ［レンズ収納時間］を選び、［0秒］を選びます。

節電機能（オートパワーオフ）の設定を変える

節電機能（オートパワーオフ）を切ったり、画面が消えるまでの時間（ディスプレイオフ）を変えたりできます（p.44）。

1 ［節電］画面を表示する

- ［節電］を選び(FUNC SET)を押します。

2 設定する

- 項目を選んだあと、◀か▶を押して設定を変えます。

A3400 IS **A2300**

- バッテリーの消耗を防ぐため、通常は、［オートパワーオフ］を［入］にし、［ディスプレイオフ］を［1分］以下にすることをおすすめします。

A810

- 電池の消耗を防ぐため、通常は、［オートパワーオフ］を［入］にし、［ディスプレイオフ］を［1分］以下にすることをおすすめします。

- ［ディスプレイオフ］は、［オートパワーオフ］が［切］のときも働きます。

日付／時刻を変える

日付／時刻を、現在の設定から変えられます。

1 ［日付/時刻］画面を表示する

- ［日付/時刻］を選び(FUNC/SET)を押します。

2 設定する

- ◀か▶を押して項目を選び、▲か▼を押して設定します。

A3400 IS

タッチ位置を調整する

タッチ操作で思うように項目やボタンを選択できないときは、タッチ画面調整を行います。正確に調整するために、必ず付属のスタイラス（p.15）を使って調整してください。

- ［タッチ画面調整］を選び(FUNC/SET)を押します。

- 画面に表示される ✛ を、付属のスタイラスでタッチします。
- 画面の表示にしたがって、左上、左下、右下、右上の順で、4回タッチします。

- 付属のスタイラス以外のとがったもの（鉛筆やペンなど）で操作しないでください。

表示言語を変える

画面に表示される言語を変えられます。

1 言語画面を表示する

- ［言語 ］を選び を押します。

2 設定する

- ▲▼◀▶を押して言語を選び、 を押します。

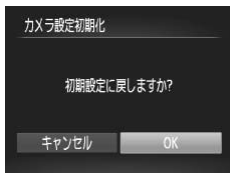
- 再生モードにして、 を押したまま、MENUボタンを押すことでも言語画面を表示できます。

その他の基本機能を変える

次の機能も［ ］タブで設定できます。

- ［ビデオ出力方式］（p.135）

カメラの設定を初期状態に戻す

カメラの設定を誤って変えてしまったときは、初期状態に戻せます。

1 ［カメラ設定初期化］画面を表示する

- ［カメラ設定初期化］を選び、 を押します。

2 初期状態に戻す

- ◀か▶を押して［OK］を選び、 を押します。
- ▶ カメラが初期状態に戻ります。

- 次の機能は初期状態に戻りません。
  - 撮影モード（p.72）
  - マニュアルホワイトバランスで記憶した白データ（p.92）

  A2300 **A810**
  - ［YT］タブの［日付/時刻］（p.22）、［言語］（p.23）、［ビデオ出力方式］（p.135）

  A3400 IS
  - ［YT］タブの［日付/時刻］（p.22）、［言語］（p.23）、［タッチ画面調整］（p.128）、［ビデオ出力方式］（p.135）

7

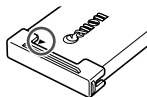
アクセサリー

付属のアクセサリーを上手に使ったり、別売アクセサリーや市販の対応機器を使って楽しみかたを広げる

付属アクセサリーの上手な使いかた

A3400 IS *A2300*

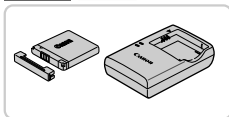
バッテリーとバッテリーチャージャーの上手な使いかた

- **充電は使う前日か当日にする**
  充電したバッテリーは、使わなくても自然放電によって少しずつ残量が減っていきます。
  充電したバッテリーは▲が見えるように、充電前のバッテリーは▲が隠れるようにカバーを取り付けると、充電状態を見分けることができます。

- **長期間保管する**
  バッテリーを使い切ってカメラから取り出し、カバーをつけて保管してください。バッテリーを使い切らずに長期間（1年くらい）保管すると、バッテリー寿命を縮めたり、性能が劣化することがあります。
- **バッテリーチャージャーを海外で使う**
  バッテリーチャージャーは、AC 100 – 240 V 50/60 Hzの地域で使えます。プラグの形状があわないときは、市販の電源プラグ変換アダプターを使ってください。海外旅行用の電子式変圧器は故障の原因になりますので絶対に使わないでください。

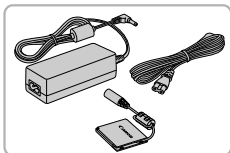
別売アクセサリー

必要に応じてお買い求めの上、ご利用ください。なお、アクセサリーは、諸事情により予告なく販売を終了することがあります。また、地域によってはお取り扱いがないことがあります。

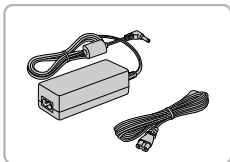
電源

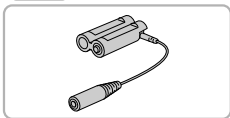
A3400 IS *A2300*

バッテリーパック NB-11L
- 充電式のリチウムイオン電池です。

バッテリーチャージャー CB-2LD
- バッテリーパック NB-11L用のバッテリーチャージャーです。

A3400 IS　A2300

ACアダプターキット ACK-DC90

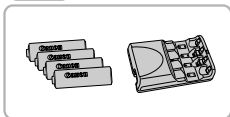
- 家庭用電源でカメラを使えます。カメラを長時間連続して使うときや、プリンターやパソコンとつなぐときには、このACアダプターキットをお使いになることをおすすめします（カメラ内のバッテリーは充電できません）。

A810

ACアダプターキット ACK800

- 家庭用電源でカメラを使えます。カメラを長時間連続して使うときや、プリンターやパソコンとつなぐときには、このACアダプターキットをお使いになることをおすすめします（カメラ内の電池は充電できません）。カメラにつなぐには、DCカプラー DR-DC10が必要です。

A810

DCカプラー DR-DC10

- ACアダプターキットを使うためのカプラーです。

A810

バッテリー／チャージャーキット CBK4-300

- 単3形ニッケル水素電池 NB-3AH（4本）とバッテリーチャージャー CB-5AHのセットです。長時間カメラをお使いになるときにおすすめします。

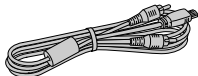
- バッテリーチャージャーやACアダプターキットは、AC 100 – 240 V 50/60 Hzの地域で使えます。
- プラグの形状があわないときは、市販の電源プラグ変換アダプターを使ってください。なお、海外旅行用の電子式変圧器は故障の原因になりますので絶対に使わないでください。

- 電池だけの「ニッケル水素電池 NB4-300」も用意されています。
- バッテリー／チャージャーキット CBK4-200もお使いになれます。

ストロボ

ハイパワーフラッシュ HF-DC2

- 被写体が遠すぎて内蔵ストロボの光が届かないときに使う外付けストロボです。
  なお、HF-DC1もお使いになれます。

その他

ソフトケース PSC-2360

- カメラをキズやホコリから守ります。

AVケーブル AVC-DC400

- 撮影した画像をテレビに表示して楽しめます。

プリンター

SELPHY シリーズ　PIXUS シリーズ

キヤノン製PictBridge対応プリンター

- キヤノン製のPictBridge対応プリンターをつなぐと、パソコンを使わずに、撮影した画像を印刷できます。
  製品の詳細については、ホームページやカタログでご確認いただくか、お客様相談センターへお問いあわせください。

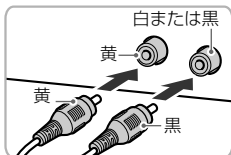
別売アクセサリーの使いかた

静止画　動画

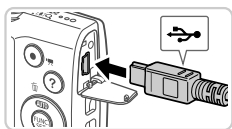
テレビで見る

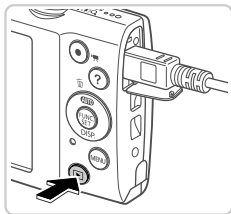
カメラとテレビをつなぐと、撮影した画像をテレビで見ることができます。なお、お使いになるテレビとのつなぎかたや入力の切り換えかたについては、テレビの使用説明書を参照してください。

- テレビに表示しているときは、一部の情報が表示されないことがあります（p.162）。

1 カメラとテレビの電源を切る

2 カメラとテレビをつなぐ

- ケーブルのプラグを、図のようにテレビの外部入力端子へしっかりと差し込みます。

- ふたを開き、ケーブルのプラグをカメラの端子にしっかりと差し込みます。

3 テレビの電源を入れて、外部入力に切り換える

- テレビの入力を、手順 2 の操作でつないだ外部入力に切り換えます。

4 カメラの電源を入れる

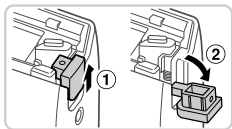
- ▶ボタンを押して電源を入れます。
- ▶ 画像がテレビに表示されます（カメラの画面には何も表示されません）。
- 見終わったらカメラとテレビの電源を切ってから、ケーブルを抜きます。

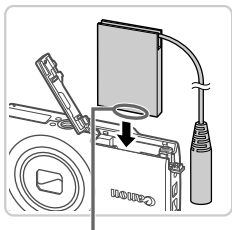
- 出力方式（NTSC/PAL）があわないと、画像が正しく表示されません。**MENU**ボタンを押して、［ ］タブの［ビデオ出力方式］で出力方式を変えてください（日本国内の出力方式は、「NTSC」です）。

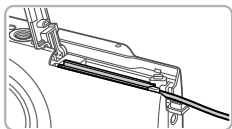
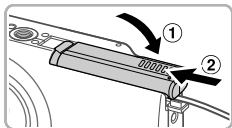
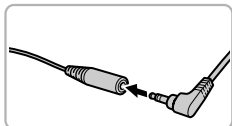
A3400 IS *A2300*

家庭用電源でカメラを使う

ACアダプターキット ACK-DC90（別売）を使うと、バッテリーの残量を気にせずにカメラを使うことができます。

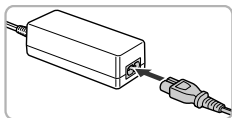
1 カメラの電源を切る

2 ふたを開ける

- p.17の手順1の操作でカード／バッテリー収納部のふたを開き、図のように通し部のふたを開きます。

3 カプラーを入れる

- カプラーを図の向きにして、p.18の手順2のバッテリーを入れる方法と同じ操作でカプラーを入れます。

- カプラーのケーブルを通し部に通します。

4 ふたを閉める

- ふたを①の方向へたおして押さえたまま、②の方向へ「カチッ」と音がするまで動かして閉めます。

5 電源コードを取り付ける

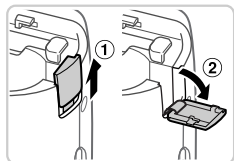
- カプラーのケーブルの端子にアダプターのプラグを差し込みます。

- 電源コードをアダプターに差し込み、プラグをコンセントに差し込みます。
- カメラの電源を入れると、カメラが使えます。
- 使い終わったら、カメラの電源を切ってからプラグをコンセントから抜いてください。

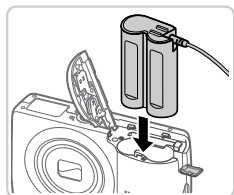
- カメラの電源を入れたまま、プラグや電源コードを抜かないでください。撮影した画像が消えたり、カメラが故障することがあります。
- 故障の原因となるためアダプターやコードを固定して使わないでください。

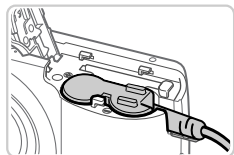
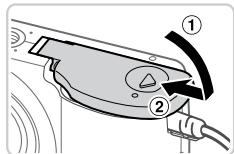
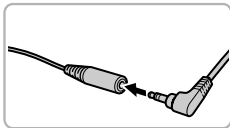
A810

家庭用電源でカメラを使う

ACアダプターキット ACK800（別売）とDCカプラー DR-DC10（別売）を使うと、電池の残量を気にせずにカメラを使うことができます。

1 カメラの電源を切る

2 ふたを開ける

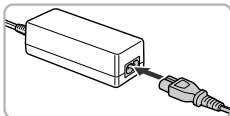
- p.19の手順1の操作でカード／電池収納部のふたを開き、図のように通し部のふたを開きます。

3 カプラーを入れる

- カプラーを図の向きに入れます。

- カプラーのケーブルを通し部に通します。

4 ふたを閉める

- ふたを①の方向へたおして押さえたまま、②の方向へ「カチッ」と音がするまで動かして閉めます。

5 電源コードを取り付ける

- カプラーのケーブルの端子にアダプターのプラグを差し込みます。

- 電源コードをアダプターに差し込み、プラグをコンセントに差し込みます。
- カメラの電源を入れると、カメラが使えます。
- 使い終わったら、カメラの電源を切ってからプラグをコンセントから抜いてください。

- カメラの電源を入れたまま、プラグや電源コードを抜かないでください。撮影した画像が消えたり、カメラが故障することがあります。
- 故障の原因となるためアダプターやコードを固定して使わないでください。

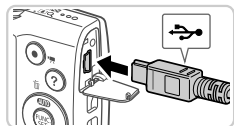
印刷する

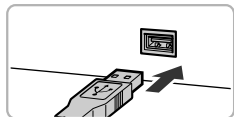
撮影した画像は、カメラとプリンターをつないで印刷することができます。また、カメラで画像を指定しておき、一括印刷、写真店への印刷注文、フォトブックの注文や印刷をすることができます。
なお、ここでは、キヤノン製コンパクトフォトプリンター SELPHY CPシリーズを使って説明しています。プリンターによっては表示される画面やできることが異なります。プリンターの使用説明書もあわせて参照してください。

静止画

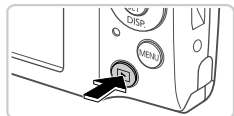
かんたん印刷

撮影した画像は、カメラとPictBridge（ピクトブリッジ）対応プリンター（別売）を付属のインターフェースケーブル（p.2）でつないで、かんたんに印刷できます。

1 カメラとプリンターの電源を切る

2 カメラとプリンターをつなぐ

- ふたを開き、ケーブルの小さい方のプラグを図の向きにして、カメラの端子にしっかりと差し込みます。
- ケーブルの大きい方のプラグをプリンターに差し込みます。プリンターとのつなぎかたについては、プリンターの使用説明書を参照してください。

3 プリンターの電源を入れる

4 カメラの電源を入れる

- ▶ボタンを押して電源を入れます。

▶［ SET ］が表示されます。

5 画像を選ぶ

● ◀か▶を押して画像を選びます。

6 印刷画面を表示する

● (FUNC. SET)を押します。

7 印刷する

● ▲か▼を押して［印刷］を選び、(FUNC. SET)を押します。

▶ 印刷がはじまります。

● 別の画像を印刷するときは、印刷が終わったあと、手順5〜6の操作を繰り返します。

● 印刷が終わったらカメラとプリンターの電源を切り、ケーブルを抜きます。

• キヤノン製 PictBridge 対応プリンター（別売）については、p.134 を参照してください。

静止画

印刷設定をする

1 印刷画面を表示する

- p.140の手順1～6の操作で左の画面を表示します。

2 設定する

- ▲か▼を押して項目を選び、◀か▶を押して内容を選びます。

	標準設定	プリンターの設定にしたがいます。
	日付	日付を入れて印刷します。
	画像番号	画像番号を入れて印刷します。
	両方	日付と画像番号の両方を印刷します。
	切	—
	標準設定	プリンターの設定にしたがいます。
	切	—
	入	撮影時の情報を使って最適な設定で印刷します。
	赤目1	赤く写った目を補正します。
	印刷枚数	印刷枚数を指定します。
トリミング	—	印刷する範囲を指定します（p.143）。
用紙設定	—	用紙サイズやレイアウトなどを指定します（p.144）。

画像を切り抜いて印刷する（トリミング）

画像の一部分を切り抜いて印刷することができます。

1 ［トリミング］を選ぶ

● p.142 の手順 1 の操作で印刷画面を表示したあと、［トリミング］を選び、(FUNC/SET)を押します。

▶ 切り抜く範囲を示す枠が表示されます。

2 切り抜く範囲を指定する

● ズームレバーを動かして枠の大きさを変えます。

● ▲▼◀▶を押して枠の位置を変えます。

● (FUNC/SET)を押すと枠が回転します。

● MENUボタンを押したあと、▲か▼を押して［領域確定］を選び、(FUNC/SET)を押します。

3 印刷する

● p.141の手順7の操作で印刷します。

- 画像が小さすぎたり、縦横比によっては、トリミングできないことがあります。
- カメラで［日付写し込み］の指定をして撮影した画像をトリミングすると、日付が正しく印刷されないことがあります。

用紙サイズやレイアウトを選んで印刷する

1 ［用紙設定］を選ぶ

- p.142 の手順 1 の操作で印刷画面を表示したあと、［用紙設定］を選び、(FUNC SET)を押します。

2 用紙サイズを選ぶ

- ▲か▼を押して内容を選び、(FUNC SET)を押します。

3 用紙タイプを選ぶ

- ▲か▼を押して内容を選び、(FUNC SET)を押します。

4 レイアウトを選ぶ

- ▲か▼を押して内容を選びます。
- ［複数画像］を選んだときは、◀か▶を押して印刷枚数を選びます。
- (FUNC SET)を押します。

5 印刷する

レイアウトで設定できる項目

標準設定	プリンターの設定にしたがいます。
フチあり	フチをつけて印刷します。
フチなし	フチなしで印刷します。
複数画像	1枚の用紙に印刷する画像の枚数を選びます。
IDフォト	証明写真用の画像を印刷します。 記録画素数がLの画像にのみ指定できます。
固定サイズ	印刷する大きさを指定します。 L判、はがき、ワイドサイズでのみ指定できます。

証明写真を印刷する

1 ［IDフォト］を選ぶ

- p.144の手順1～4の操作で［IDフォト］を選び、FUNC./SETを押します。

2 長辺と短辺の長さを選ぶ

- ▲か▼を押して項目を選んだあと、◀か▶を押して長さを選び、FUNC./SETを押します。

3 印刷する範囲を選ぶ

- p.143の手順2の操作で印刷する範囲を選びます。

4 印刷する

動画

動画を印刷する

1 印刷画面を表示する

- p.140の手順1～5の操作で動画を選んだあと、(FUNC/SET)を押します。
- ◀か▶を押して［凸］を選んだあと、(FUNC/SET)を押して左の画面を表示します。

2 印刷方法を選ぶ

- ▲か▼を押して［ ］を選び、◀か▶を押して印刷方法を選びます。

3 印刷する

動画の印刷方法

1コマ	表示されているシーンを静止画として印刷します。
連続コマ	動画から一定の間隔で抜き出したシーンを、1枚の用紙に並べて印刷します。［キャプション］を［入］にすると、フォルダ番号、画像番号、コマの経過時間を同時に印刷できます。

- 印刷中に(FUNC/SET)を押すと、印刷を中止します。
- CP720／CP730以前のキヤノンPictBridge対応プリンターでは、[IDフォト]や［連続コマ］は指定できません。

静止画

印刷指定（DPOF）

カード内の画像から印刷したい画像や印刷枚数などを指定して、一括印刷（p.149）や写真店への印刷注文をすることができます（最大998画像）。なお、この指定方法は、DPOF（Digital Print Order Format）規格に準拠しています。

印刷内容を指定する

印刷タイプや日付、画像番号といった印刷内容を設定できます。この設定は、印刷指定したすべての画像に共通して適用されます。

- MENU ボタンを押して、[凸] タブの［印刷の設定］を選んだあと、項目を選び、設定します（p.48）。

印刷タイプ	スタンダード	1枚の用紙に1枚の画像を印刷
	インデックス	1枚の用紙に縮小画像を複数印刷
	両方	スタンダードとインデックスの両方を印刷
日付	入	撮影日を入れて印刷
	切	—
画像番号	入	画像番号を入れて印刷
	切	—
印刷後指定解除	入	印刷後、画像の印刷指定をすべて解除
	切	—

- プリンターまたは写真店によっては、設定した内容が反映されないことがあります。
- 他のカメラで設定したカードをこのカメラに入れると、[!] が表示されることがあります。このカメラで設定を変えると、設定済みの内容がすべて書き換えられることがあります。
- ［日付］を［入］に設定すると、お使いのプリンターによっては、日付が重複して印刷されることがあります。

- ［インデックス］に設定したときは、［日付］と［画像番号］の両方を［入］にはできません。
- 日付の並びは、MENUボタンを押して［𝐘𝐓］タブの［日付/時刻］の設定内容で印刷されます（p.21）。
- 一部のキヤノン製 PictBridge 対応プリンター（別売）では、インデックス印刷ができないことがあります。

1枚ずつ枚数を指定する

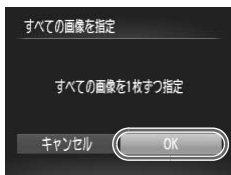
1 ［印刷する画像を指定］を選ぶ

- MENU ボタンを押して、［凸］タブの［印刷する画像を指定］を選び、(FUNC/SET)を押します。

2 画像を選ぶ

- ◀か▶を押して画像を選び、(FUNC/SET)を押します。
- ▶ 枚数指定ができるようになります。
- ［インデックス］では、指定されると［✔］が表示され、もう一度(FUNC/SET)を押すと解除されて［✔］が消えます。

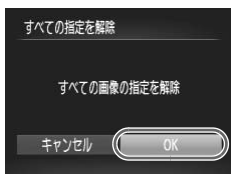
3 枚数を設定する

- ▲か▼を押して枚数を指定します（最大99枚）。
- 手順2～3の操作を繰り返して、画像と枚数を指定します。
- ［インデックス］では枚数の指定ができません。手順2の操作で画像のみを選んでください。
- MENUボタンを押すと設定され、メニュー画面に戻ります。

すべての画像を指定する

1 ［すべての画像を指定］を選ぶ

- p.148の手順1の操作で［すべての画像を指定］を選び、(FUNC/SET)を押します。

2 印刷指定する

- ◀か▶を押して［OK］を選び、(FUNC/SET)を押します。

すべての指定を解除する

1 ［すべての指定を解除］を選ぶ

- p.148の手順1の操作で［すべての指定を解除］を選び、(FUNC/SET)を押します。

2 指定を解除する

- ◀か▶を押して［OK］を選び、(FUNC/SET)を押します。

印刷指定（DPOF）した画像を印刷する

- 印刷指定した画像（p.146〜149）があるときは、カメラとPictBridge対応プリンターをつなぐと左の画面が表示されます。▲か▼を押して［すぐに印刷］を選び、(FUNC/SET)を押すと、印刷指定した画像をかんたんに印刷できます。
- 印刷を中断して再開したときは、続きの画像から印刷されます。

静止画

フォトブック指定

カード内の画像からフォトブックに使いたい画像を指定（最大998 画像）し、付属のソフトウェアを使ってパソコンに取り込むと、指定した画像が専用のフォルダにコピーされて、インターネットでのフォトブック注文や、お使いのプリンターでの印刷をするときに便利です。

指定方法を選ぶ

- MENU ボタンを押して、［▶］タブの［フォトブック指定］を選んだあと、指定方法を選びます。

- 他のカメラで設定したカードをこのカメラに入れると、❗が表示されることがあります。このカメラで設定を変えると、設定済みの内容がすべて書き換えられることがあります。

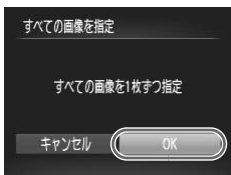
- パソコンに取り込んだあとは「ImageBrowser EXガイド」（p.30）やお使いのプリンターの使用説明書もあわせて参照してください。

1枚ずつ指定する

1 ［画像指定］を選ぶ

- 上記の操作で［画像指定］を選び、(FUNC/SET)を押します。

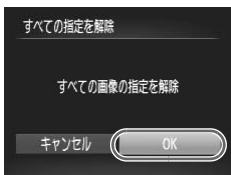
2 画像を選ぶ

- ◀か▶を押して画像を選び、(FUNC/SET)を押します。
- ▶［✓］が表示されます。
- もう一度(FUNC/SET)を押すと解除され、［✓］が消えます。
- 別の画像も指定するときは、上記の操作を繰り返します。
- MENUボタンを押すと設定され、メニュー画面に戻ります。

すべての画像を指定する

1 ［すべての画像を指定］を選ぶ

- p.150の操作で［すべての画像を指定］を選び、(FUNC/SET)を押します。

2 印刷指定する

- ◀か▶を押して［OK］を選び、(FUNC/SET)を押します。

すべての指定を解除する

1 ［すべての指定を解除］を選ぶ

- p.150 の操作で［すべての指定を解除］を選び、(FUNC/SET)を押します。

2 指定を解除する

- ◀か▶を押して［OK］を選び、(FUNC/SET)を押します。

8

付録

カメラを使うときに役立つ情報

故障かな？と思ったら

「カメラが故障したのかな？」と考える前に、次の例を参考に確認してください。ただし、問題が解決しないときは、別紙の修理受付センターへご相談ください。

電源

電源ボタンを押してもカメラが動作しない

A3400 IS　A2300

- 指定されたバッテリーで、残量があることを確認してください（p.161）。
- バッテリーが正しい向きで入っているか確認してください（p.17）。
- カード／バッテリー収納部ふたが閉じているか確認してください（p.18）。
- バッテリーの端子が汚れているとバッテリー性能が低下します。綿棒などで端子を拭き、バッテリーを数回入れなおしてください。

A810

- 指定された電池で、残量があることを確認してください（p.161）。
- 電池が正しい向きで入っているか確認してください（p.19）。
- カード／電池収納部ふたが閉じているか確認してください（p.19）。
- 電池の電極が汚れていると電池性能が低下します。綿棒などで電極を拭き、電池を数回入れなおしてください。

A3400 IS　A2300

バッテリーの消耗が早い

- 低温下ではバッテリー性能が低下します。端子カバーをつけて、ポケットなどでバッテリーを温めてからお使いください。
- 上記を確認しても、充電したのにすぐ使えなくなるときはバッテリーの寿命です。新しいバッテリーをお買い求めください。

A810

電池の消耗が早い

- 低温下では電池性能が低下します。電極が金属と接触しないようにして、ポケットなどで電池を温めてからお使いください。

レンズが出たままで収納されない

A3400 IS　A2300

- 電源を入れたまま、カード／バッテリー収納部ふたを開けないでください。ふたを閉じたあと、電源を入れてからもう一度切ってください（p.18）。

A810

- 電源を入れたまま、カード／電池収納部ふたを開けないでください。ふたを閉じたあと、電源を入れてからもう一度切ってください（p.19）。

A3400 IS　A2300

バッテリーがふくらむ

- バッテリー特性のため安全上は問題ありません。ただし、バッテリーがふくらむことでカメラに入らなくなったときは、別紙の修理受付センターへご相談ください。

テレビ表示

テレビに表示できない／画面が乱れる（p.136）

撮影

撮影できない

- 再生モードのとき（p.23）は、シャッターボタンを半押ししてください（p.45）。

暗い場所での画面表示がおかしい（p.46）

撮影中の画面表示がおかしい

次のときは、静止画には記録されませんが、動画には記録されます。注意してください。

- カメラに強い光があたると、表示が黒くなることがあります。
- 蛍光灯やLEDなどの照明下で撮影すると、画面がちらつくことがあります。
- 明るい光源を撮影すると、画面に赤紫色の帯が表示されることがあります。

A3400 IS　A2300

シャッターボタンを押したら、画面に［⚡］が点滅表示されて撮影できない（p.54）

A810

シャッターボタンを押したら、画面が消えて撮影できない（p.54）

シャッターボタンを半押ししたときに、［手ブレ警告］が表示される（p.64）

- ストロボを［⚡］にしてください（p.101）。
- ISO感度を高くしてください（p.90）。

A3400 IS

- ［手ブレ補正］を［入］にしてください（p.105）。
- 三脚などでカメラを固定してください。三脚などでカメラを固定するときは、［手ブレ補正］を［切］にして撮影することをおすすめします（p.105）。

画像がボケて撮影される

- シャッターボタンを半押ししてピントを合わせてから、撮影してください（p.45）。
- 撮影距離範囲内に被写体をおさめて撮影してください（p.41）。
- ［ランプ設定］を［入］にしてください（p.70）。
- 意図しない機能（マクロ撮影など）が設定されていないか確認してください。
- フォーカスロック、AFロックで撮影してください（p.96、100）。

シャッターボタンを半押ししても、AFフレームが表示されずピントが合わない

- 被写体の明暗差がある部分を画面中央にしてシャッターボタンを半押しするか、半押しを何度か繰り返すとAFフレームが表示され、ピントが合うことがあります。

被写体が暗すぎる

- ストロボを［⚡］にしてください（p.101）。
- 露出補正で明るさを補正してください（p.88）。
- i-コントラストで補正してください（p.91、119）。

- スポット測光またはAEロックで撮影してください（p.89、90）。

被写体が明るすぎる（白トビする）

- ストロボを［⊛］にしてください（p.64）。
- 露出補正で明るさを補正してください（p.88）。
- スポット測光またはAEロックで撮影してください（p.89、90）。
- 被写体にあたっている照明を弱めてください。

ストロボが光ったのに暗い画像になる（p.54）

- ストロボ撮影に適した距離で撮影してください（p.41）。
- ISO感度を高くしてください（p.90）。

ストロボ撮影した画像の被写体が明るすぎる（白トビする）

- ストロボ撮影に適した距離で撮影してください（p.41）。
- ストロボを［⊛］にしてください（p.64）。

ストロボ撮影時、画像に白い点などが写る

- 空気中のちりなどにストロボ光が反射しました。

画像が粗い感じになる

- ISO感度を低くして撮影してください（p.90）。
- 撮影モードによってはISO感度が高くなるため、粗い感じの画像になることがあります（p.90）。

目が赤く写る（p.67）

- ［ランプ設定］を［入］に設定してください（p.70）。ストロボ撮影のときは、ランプ（前面）（p.4）が点灯して、約1秒間は赤目現象を緩和するため撮影できません。また、写される人がランプを見ているときに効果があります。「室内を明るくする」、「写したい人に近づく」と効果が上がります。
- 赤目補正で補正してください（p.120）。

カードへの画像の記録時間が長い、または連続撮影速度が遅くなった

- カードをこのカメラで物理フォーマットしてください（p.125）。

撮影機能やFUNC.メニューの設定ができない

- 設定できる項目は撮影モードによって変わります。「撮影機能一覧」、「FUNC.メニュー一覧」、「撮影タブメニュー 一覧」（p.164～171）で確認してください。

動画撮影

正しい撮影時間が表示されない、または中断される

- カードをこのカメラで初期化するか、書き込み速度の速いカードを使ってください。撮影時間が正しく表示されないときも、カードには実際に撮影した時間の動画が記録されています（p.40、124）。

画面に［❗］が表示され、撮影が自動的に終わった

カメラの内部メモリーが少なくなりました。次の方法を試してください。

- カードをこのカメラで物理フォーマットする（p.125）。
- 画質を変える（p.68）。
- 書き込み速度の速いカードを使う（p.40）。

再生

再生できない

- パソコンでファイル名やフォルダ構造を変えると再生できないことがあります。ファイル名やフォルダ構造については、「ImageBrowser EXガイド」（p.30）を参照してください。

再生が中断する、または音声が途切れる

- このカメラで物理フォーマットしたカードを使ってください（p.125）。
- 動画を、読み込み速度の遅いカードにコピーして再生すると、再生が一瞬中断することがあります。
- パソコンで動画を再生するとき、パソコンの性能によっては、画像がフレーム（コマ）落ちしたり、音声が途切れたりすることがあります。

カード

カードが認識されない

- カードを入れたままで、もう一度電源を入れなおしてください（p.20）。

パソコン

画像をパソコンに取り込めない

カメラとパソコンをケーブルでつないで取り込むときは、次の操作で画像の取り込み速度を遅くすることで、問題が解決できることがあります。

- ▶ボタンを押して再生モードにしたあと、MENUボタンを押したまま、▲と(FUNC/SET)を同時に押します。表示された画面で◀か▶を押して［B］を選び、(FUNC/SET)を押します。

画面に表示されるメッセージ一覧

画面にメッセージが表示されたときは、次のように対応してください。

カードがありません

- カードが正しい向きで入っていません。カードを正しい向きで入れます（p.20）。

カードがロックされています

- SDメモリーカード、SDHCメモリーカード、SDXCメモリーカードのスイッチが「LOCK」側（書き込み禁止）になっています。スイッチを書き込みできる方へ切り換えます（p.20）。

記録できません

- カードが入っていない状態で撮影しました。撮影するときは、カードを正しい向きで入れます（p.20）。

カードが異常です（p.125）

- 初期化したカードを正しい向きで入れても同じ表示が出るときは、別紙の修理受付センターへご相談ください（p.20）。

カード残量が足りません

- カードの空き容量がないため、撮影（p.51、71、87）や編集（p.118～120）はできません。画像を消して（p.116）空き容量を作るか、空き容量のあるカードに交換します（p.40）。

バッテリーを交換してください（p.17）

画像がありません

- カードに表示できる画像が入っていません。

保護されています（p.115）

認識できない画像です／互換性のないJPEGです／画像が大きすぎます／再生できません（AVI）／RAW

- パソコンで加工したり、ファイル名を変えたりした画像や、このカメラ以外で撮影した画像は、表示できないことがあります。

拡大できない画像です／回転できない画像です／処理できない画像です／登録できない画像です／処理できません／指定できない画像です

- パソコンで編集した画像やファイル名を変えた画像、このカメラ以外で撮影した画像は、以下の機能が使えないことがあります。また、動画では、*の機能が使えません。
拡大（p.113）*、回転（p.117）、編集（p.118～120）*、印刷指定（p.146）*、フォトブック指定（p.150）*

指定枚数の上限を超えています

- 印刷指定（p.146）の画像を998枚より多く指定しました。指定する画像を998枚以下にします。

通信エラー

- カードに大量の画像（1000 枚程度）があるため、パソコンに画像を取り込んだり印刷したりできません。パソコンへ取り込むときは、カードリーダー（市販品）を使います。印刷するときは、プリンターのカードスロットにカードを差して印刷します。

ファイル名が作成できません

- フォルダ番号が最大値（999）で、画像番号も最大値（9999）になっているときは、フォルダや画像が作成できません。[𝐘𝐓] メニューで［画像番号］を［オートリセット］に変えるか（p.126）、カードを初期化します（p.124）。

レンズエラーを検知しました

- レンズ動作中にレンズを押さえたり、ホコリや砂ボコリの立つ場所などでカメラを使うと表示されることがあります。
- 頻繁に表示されるときは故障が考えられますので、別紙の修理受付センターへご相談ください。

カメラがエラーを検知しました（エラー番号）

- 撮影直後に表示されたときは、撮影されていないことがあります。再生して画像を確認してください。
- 頻繁に表示されるときは故障が考えられますので、エラー番号（Exx）を控えて、別紙の修理受付センターへご相談ください。

ファイルエラー

- パソコンで加工したり、このカメラ以外で撮影した画像は印刷できないことがあります。

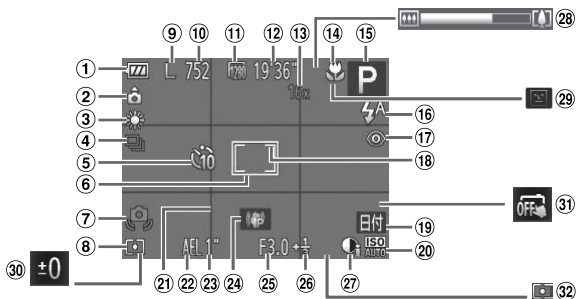
印刷エラー

- 用紙サイズの設定を確認してください。正しく設定されていてもこのエラーが表示されるときは、プリンターの電源を入れなおして、もう一度設定してください。

インク吸収体が満杯です

- パーソナル機器修理受付センターまたはお近くの修理受付窓口にインク吸収体の交換を依頼してください。

画面の表示内容一覧

撮影時（情報表示あり）

A3400 IS　A2300

① バッテリー残量表示（p.161）

A810

① 電池残量表示（p.161）
② カメラ位置＊
③ ホワイトバランス（p.92）
④ ドライブモード（p.93）
⑤ セルフタイマー（p.61）
⑥ AFフレーム（p.95）
⑦ 手ブレ警告（p.54）

A2300　A810

⑧ 測光方式（p.90）
⑨ 静止画の記録画素数（p.66）
⑩ 撮影可能枚数（p.40）
⑪ 動画の記録画素数（p.68）
⑫ 撮影可能時間（p.40）
⑬ デジタルズーム倍率（p.60）

A3400 IS

⑭ フォーカスゾーン（p.94）、AFロック（p.100）、手ブレ補正アイコン（p.59）

A2300　A810

⑭ フォーカスゾーン（p.94）AFロック（p.100）
⑮ 撮影モード（p.164）、シーンアイコン（p.55）
⑯ ストロボモード（p.64、101）
⑰ 赤目自動補正（p.67）
⑱ スポット測光枠（p.90）
⑲ 日付写し込み（p.65）
⑳ ISO感度（p.90）
㉑ グリッドライン（p.105）
㉒ AEロック（p.89）、FEロック（p.102）
㉓ シャッタースピード

A3400 IS

㉔ 手ブレ補正（p.105）
㉕ 絞り数値
㉖ 露出補正量（p.88）
㉗ i-コントラスト（p.91）
㉘ ズームバー（p.52）
㉙ 目つむり検出（p.69）

A3400 IS

㉚ 露出補正量（p.88）

A3400 IS

㉛ タッチシャッター（p.63）

A3400 IS

㉜ 測光方式（p.90）

＊ ：通常、 ：カメラを縦位置に構えたとき
撮影時にカメラの向きを検知して最適な撮影ができるよう制御され、再生時には、カメラが縦向きでも横向きでも、画像が自動的に回転して正位置で見ることができます。
ただし、カメラを真上や真下に向けると正しく検出できないことがあります。

A3400 IS　A2300

バッテリーの残量表示

バッテリーの状態は、画面にマークやメッセージで表示されます。

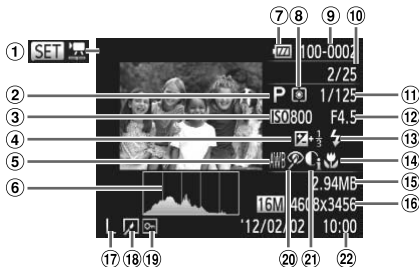
画面表示	内容
	十分です。
	少し減っていますが、まだ使えます。
（赤く点滅）	残量が少なくなってきました。充電してください。
[バッテリーを交換してください]	残量がありません。すぐに充電してください。

A810

電池の残量表示

電池の残量が少なくなると、画面にマークやメッセージが表示されます。電池の残量があるときは表示されません。

画面表示	内容
（赤く点滅）	残量が少なくなってきました。代わりの電池を用意してください。
[バッテリーを交換してください]	残量がありません。電池を交換してください。

再生時（詳細情報表示）

① 動画（p.57、108）
② 撮影モード（p.164）
③ ISO感度（p.90）
④ 露出補正量（p.88）
⑤ ホワイトバランス（p.92）
⑥ ヒストグラム（p.110）

A3400 IS *A2300*

⑦ バッテリー残量表示（p.161）

A810

⑦ 電池残量表示（p.161）
⑧ 測光方式（p.90）
⑨ フォルダ番号－画像番号（p.126）
⑩ 再生画像番号／総画像数
⑪ シャッタースピード（静止画）、画質/フレーム数（動画）（p.68）
⑫ 絞り数値
⑬ ストロボ発光（p.101）
⑭ フォーカスゾーン（p.94）
⑮ ファイルサイズ
⑯ 静止画：記録画素数（p.40）
動画：撮影時間
⑰ 記録画素数（p.66）、MOV（動画）
⑱ 画像編集（p.118～120）
⑲ 保護（p.115）
⑳ 赤目補正（p.67、120）
㉑ i-コントラスト（p.91、119）
㉒ 撮影日時（p.21）

- テレビに表示しているときは、一部の情報が表示されないことがあります（p.135）。

「見る」（p.108）で表示される動画操作パネル一覧

⮌	終了
▶	再生
❙▶	スロー再生（◀か▶を押して再生速度を変更）（音声は再生されません）
❙◀	前スキップ*（FUNC SETを押したままにすると連続してスキップ）
◀❙❙	フレーム戻し（FUNC SETを押したままにすると早戻し）
❙❙▶	フレーム送り（FUNC SETを押したままにすると早送り）
▶❙	次スキップ*（FUNC SETを押したままにすると連続してスキップ）
⎙	PictBridge対応プリンターとつないだとき（p.140）に表示

* 約4秒前または後のフレームを表示

- 動画再生中に◀か▶を押すと、前スキップ、次スキップができます。

機能／メニュー 一覧

撮影機能一覧

機能 ＼ 撮影モード		AUTO	P	LIVE	(人)＊1
ストロボ（p.64、101）	ストロボオート	○	○	○	○
	発光	−	○	○	−
	スローシンクロ	＊2	○	○	−
	発光禁止	○	○	○	○
AEロック / FEロック（p.89、102）＊4		−	○	−	−
AFロック（p.100）		−	○	○	−
フォーカスゾーン（p.94）	通常	○	○	○	○
	マクロ 遠景	−	○	○	○
キャッチAF（p.97）＊5		−	○	○	○
タッチAF（p.99）＊6		○	○	○	−
タッチシャッター（p.63）＊6		○	○	○	−
画面の表示（p.46）	情報表示あり	○	○	○	○
	情報表示なし	○	○	−	○

＊1 PowerShot A2300、PowerShot A810のみ
＊2 選択不可。ただし状況に応じて［スローシンクロ］
＊3 選択不可。ただし発光時は［スローシンクロ］
＊4 ストロボ発光禁止ではFEロックなし
＊5 PowerShot A2300、PowerShot A810のみ
＊6 PowerShot A3400 ISのみ
＊7 顔が検出されたときのみ可能
＊8 撮影のみ可。被写体の指定は不可

○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－	－	－	－
○	○	－	○	○	○	○	○	○	○	－	○	－	－
－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	＊3	－	－
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	○	－	－
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	－	○	○	○	○	○	○	○	○	－	○	○	○
○	－	○	－	－	－	○	○	○	○	－	○	○	－
○	＊7	○	－	－	－	○	○	○	○	－	○	○	－
○	－	○	＊8	－	○	○	○	○	○	＊8	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	－	○	－	－	－	－	○	○	○	○	○	○	○

○選択可能または自動設定　－選択不可

FUNC.メニュー 一覧

機能 ＼ 撮影モード		AUTO	P	LIVE	*1
露出補正（p.88）		–	○	*2	○
ISO感度（p.90）	ISO AUTO	○	○	○	○
	ISO 100 ISO 200 ISO 400 ISO 800 ISO 1600	–	○	–	–
ホワイトバランス（p.92）	AWB	○	○	○	○
		–	○	–	○
ドライブモード（p.93）		○	○	○	*3
		–	○	–	*3
セルフタイマー（p.61）	OFF	○	○	○	○
	10 2 C	○	○	○	○
セルフタイマー設定（p.62）	時間*4	○	○	○	○
	枚数*5	○	○	○	○
記録画素数（p.66）	L	○	○	○	–
	M1 M2 S	○	○	–	–
	M	–	–	–	○
	W	○	○	–	–
動画の画質（p.68）	1280	○	○	○	○
	640	○	○	○	○

*1 PowerShot A2300、PowerShot A810のみ
*2 ［暗く – 明るく］で設定
*3 シーンに応じて1枚撮影または連続撮影後に合成（p.75）
*4 枚数設定不可のモードでは0秒設定不可
*5 枚数設定不可のモードでは1枚固定
*6 記録画素数の設定に連動して自動設定（p.66）

○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	—	○	—
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○	—	—
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
—	○	○	—	—	—	—	—	—	—	—	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	—
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○
○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○
○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	—
○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	—	—	—	—	—	—	—	○	○	○	○	○
—	—	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
○	○	—	—	○	—	—	—	—	○	○	○	○	—
○	○	○	○	*6	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	*6	○	○	○	○	○	○	○	○	—

○選択可能または自動設定　—選択不可

撮影タブメニュー 一覧

機能	撮影モード	AUTO	P	LIVE	(人物)*1
AFフレーム（p.95）	顔優先AiAF*2	○	○	○	○
	キャッチAF*3	–	○	○	○
	中央*3	–	○	○	○
	一点*4	–	○	○	–
デジタルズーム（p.60）	入	○	○	○	–
	切	–	○	○	○
ピント位置拡大（p.103）	入	–	○	○	○
	切	○	○	○	○
サーボAF（p.98）	入	–	○	○	○
	切*6	○	○	○	○
タッチシャッター（p.63）*4	入	○	○	○	–
	切	○	○	○	–
ランプ設定（p.70）	入	○	○	○	○
	切	○	○	○	○
赤目自動補正（p.67）	入	○	○	–	○
	切	○	○	○	○
i-コントラスト（p.91）	自動	○	○	–	–
	切	–	○	○	○
測光方式（p.90）	評価	○	○	○	○
	中央部重点平均、スポット	–	○	–	–
撮影の確認（p.70）	切、2～10秒、ホールド	○	○	○	○
レビュー情報（p.104）	非表示	○	○	○	○
	詳細表示	–	○	○	○
目つむり検出（p.69）	入	○	○	○	–
	切	○	○	○	○

*1 PowerShot A2300、PowerShot A810のみ
*2 顔が検出されないときの動作は撮影モードによって異なる
*3 PowerShot A2300、PowerShot A810のみ
*4 PowerShot A3400 ISのみ
*5 撮影のみ可。被写体の指定は不可
*6 AUTOモードでは動きを検出したときは［入］

○	○	○	—	—	○	○	○	○	○	—	○	○	○
○	—	○	—	—	—	○	○	○	○	—	○	○	—
○	—	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	—	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	—	—	—	—	—	—	—	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	—	—	—	○	○	○	○	—	○	○	—
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	—	○	—	—	—	○	○	○	○	—	—	○	—
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	—	○	＊5	—	○	○	○	○	○	＊5	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	—	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	—	—	—	—	—	—	○	—	○	—	—
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	—	—
—	—	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—
○	○	○	—	—	—	—	○	○	○	—	—	○	—
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

○選択可能または自動設定　—選択不可

機能		撮影モード	AUTO	P	LIVE	(人)＊1
グリッドライン（p.105）	入		－	○	○	○
	切		○	○	○	○
手ブレ補正設定（p.105）＊2	手ブレ補正	切	－	○	○	－
		入	○	○	○	－
		撮影時	－	○	○	－
	パワードIS	入	○	○	○	－
		切	－	○	○	－
日付写し込み（p.65）	切		○	○	○	○
	日付のみ、日付＋時刻		○	○	○	－

＊1 PowerShot A2300、PowerShot A810のみ
＊2 PowerShot A3400 ISのみ

○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	—	—	—	—	—	—	—	○	○	○	○	—

○選択可能または自動設定　—選択不可

設定タブメニュー 一覧

項目	参照ページ
消音	p.122
音量	p.122
機能ガイド	p.123
液晶の明るさ	p.123
起動画面	p.123
カードの初期化	p.124、125
画像番号	p.126
フォルダ作成	p.126

項目	参照ページ
レンズ収納時間	p.127
節電	p.44、127
日付 / 時刻	p.22
ビデオ出力方式	p.136
A3400 IS タッチ画面調整	p.128
言語	p.23
カメラ設定初期化	p.129

再生タブメニュー 一覧

項目	参照ページ
検索ジャンプ	p.112
スライドショー	p.114
全消去	p.116
保護	p.115
回転	p.117
フォトブック指定	p.150

項目	参照ページ
i-コントラスト	p.119
赤目補正	p.120
リサイズ	p.118
縦横自動回転	p.117
再生開始位置	p.109
再生効果	p.109

印刷タブメニュー 一覧

項目	参照ページ
印刷	—
印刷する画像を指定	p.148
すべての画像を指定	p.149

項目	参照ページ
すべての指定を解除	p.149
印刷の設定	p.147

日ごろの取り扱いについて

- カメラは精密機器です。落としたり、衝撃を与えたりしないでください。
- カメラを磁石やモーターなどの、強力な磁場を発生させる装置の近くに、絶対に置かないでください。電磁波により、カメラが誤作動したり、記録した画像が消えたりすることがあります。
- カメラや画面に水滴や汚れがついたときは、眼鏡拭きなどのやわらかい布で拭き取ってください。ただし、強くこすったり、押したりしないでください。
- 有機溶剤を含むクリーナーなどでは、絶対にカメラや画面を拭かないでください。
- レンズにゴミがついているときは、市販のブロアーで吹き飛ばすだけにしてください。汚れがひどいときは、別紙の修理受付センターにご相談ください。
- カメラを寒いところから急に暑いところへ移すと、カメラに結露（水滴）が発生することがあります。カメラを寒いところから暑いところへ移すときは結露の発生を防ぐため、カメラをビニール袋に入れて袋の口を閉じ、周囲の温度になじませてから取り出してください。

A3400 IS　A2300

- 結露が発生したときは、故障の原因となりますのでカメラを使わないでください。バッテリー、カードをカメラから取り出し、水滴が消えてから、カメラを使ってください。

A810

- 結露が発生したときは、故障の原因となりますのでカメラを使わないでください。電池、カードをカメラから取り出し、水滴が消えてから、カメラを使ってください。

索引

【た】

【な】

【は】

アフターサービス期間について

本製品のアフターサービス期間は、製品の製造打切り後5年間です。
なお、弊社の判断によりアフターサービスとして同一機種または同程度の仕様の製品への本体交換を実施させていただく場合があります。同程度の機種との交換の場合、ご使用の消耗品や付属品をご使用いただけないことや、対応OSが変更になることがあります。

妨害電波自主規制について

この装置は、クラス B 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。カメラユーザーガイド（本書）にしたがって正しい取り扱いをしてください。

VCCI-B

商標、ライセンスについて

- DCFは、（社）電子情報技術産業協会の団体商標で、日本国内における登録商標です。
- SDXCロゴはSD-3C, LLC.の商標です。
- 本機器は、Microsoft からライセンスされた exFAT 技術を搭載しています。
- iFrameロゴおよびiFrameシンボルはApple Inc.の商標です。
- This product is licensed under AT&T patents for the MPEG-4 standard and may be used for encoding MPEG-4 compliant video and/or decoding MPEG-4 compliant video that was encoded only (1) for a personal and non-commercial purpose or (2) by a video provider licensed under the AT&T patents to provide MPEG-4 compliant video. No license is granted or implied for any other use for MPEG-4 standard.
  ＊ 規定により英語で表記しています。

このガイドについて

- 内容の一部または全部を無断で転載することは、禁止されています。
- 内容に関しては、将来予告なく変更することがあります。
- イラストや画面表示は、実際と一部異なることがあります。
- このカメラを運用した結果については、上記にかかわらず責任を負いかねますので、ご了承ください。

Canon

キヤノン株式会社

キヤノンマーケティングジャパン株式会社

〒108-8011 東京都港区港南2-16-6

製品取り扱い方法に関するご相談窓口

お客様相談センター

050-555-90005

受付時間：平日 9：00～20：00

土・日・祝日 10：00～17：00

（1月1日～1月3日は休ませていただきます）

※上記番号をご利用いただけない方は、043-211-9630をご利用ください。

※IP電話をご利用の場合、プロバイダーのサービスによってつながらない場合があります。

※受付時間は予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

修理受付窓口

別紙でご確認ください。

キヤノンデジタルカメラホームページのご案内

キヤノンデジタルカメラのホームページを開設しています。最新の情報が掲載されていますので、インターネットをご利用の方は、ぜひお立ち寄りください。

キヤノンデジタルカメラ製品情報
http://canon.jp/cdc

キヤノンサポートページ
http://canon.jp/support

CANON iMAGE GATEWAY
http://www.imagegateway.net

リチウムイオン・バッテリーパック、チャージャーの「模倣品」にご注意下さい

国内・国外を問わず、ネットオークションでリチウムイオン・バッテリーパック、チャージャーの「模倣品」が頻繁に出回っておりますので十分にご注意ください。詳細は以下のURLよりご覧ください。
http://cweb.canon.jp/e-support/info/battery-anno.html

Li-ion

リチウムイオン電池のリサイクルにご協力ください。

CDP-J484-030